

丁度今年5年目に入り、いよいよ「連絡網を確保しないといけないなあ」と、話していた矢先に災害が起こったのです。

それと、私はある消防団に所属して居りまして、非常通信を目的とすることをやるうではないかということで、大阪近辺でのファイアー関係の連絡網もあったのですが、今回はファイアー関係は地震で殆どつぶれましたので、それどころではなかったのです。

今手元に渡っていると思うのですが、『ひまわり19号』、少しこれは自慢話しになってしまいますが、こういうような状態で運用をしています。

此処では私があまり上手く表現出来なかったという面もあるのですが、『突然襲った阪神淡路大震災とアマチュア無線』というような題目で書いてあります。私も年に2回大きなアイボール会いたします。正月の新年アイボール会には100局以上が一堂に集まります。それがこの3エリアのFMの430MHzで出ている局ばかりです。

震災2年、FM愛好会のメンバーが主体の西宮基地局

今回の災害は、私自身が出勤途中で脱線したJRから降り芦屋から徒歩で尼崎に痛ってきたのです。あの悲慘な中を。非常に後ろ髪を引かれる気持ちで僕は何しろ尼崎へ帰らないといけないという使命を持つてるのだから、此処で何も出来ないという気持ちで帰って来た状態でございます。

1月29日に予定していた新年アイボール会を、急きよ阪神大震災アイボール会に切り換え、その時に集まった局が60局。集まった局というのは被災地の周辺の方々が多く来られました。「おーいどうなってるのか。こないなってるのに、何も動きがないのか。お前らどうするのか。動かんかいや。」こういうような意見も頂きました。私は其れまでは非常にびくびくとしながら運用をこそそそとやっていたのが現状だったので動きがとれなかった。「何処か早いことJARLのほうで非常通信を設定しないのだろうか」というようなこともあって、待ちの状態だったのです。

僕の家内もアマチュア無線をやってます。それからもう1局JQ3TWQというのは、僕らのグループの事務長をやってますその方と3人で「東灘区のほうに、一度訪問してみよう。どういふようなことが出来て、どういふようなことをしてるのか」と皆のアイボール会の中で聞いたら、「アマチュア無線を持つてるのだけれど、何をしたらいいの。それとも何処へ行ったらいいの。どんな手段でボランティアとして僕らが力を出せるのかということがわからんのか。JARLの会員といつても何もわからんのか」と、こういうことがありましたので、一応実状を探ってみようということで、東灘区のほうへ行かせてもらって、その時にJA3YRLの方にも行かせてもらったのですよ。

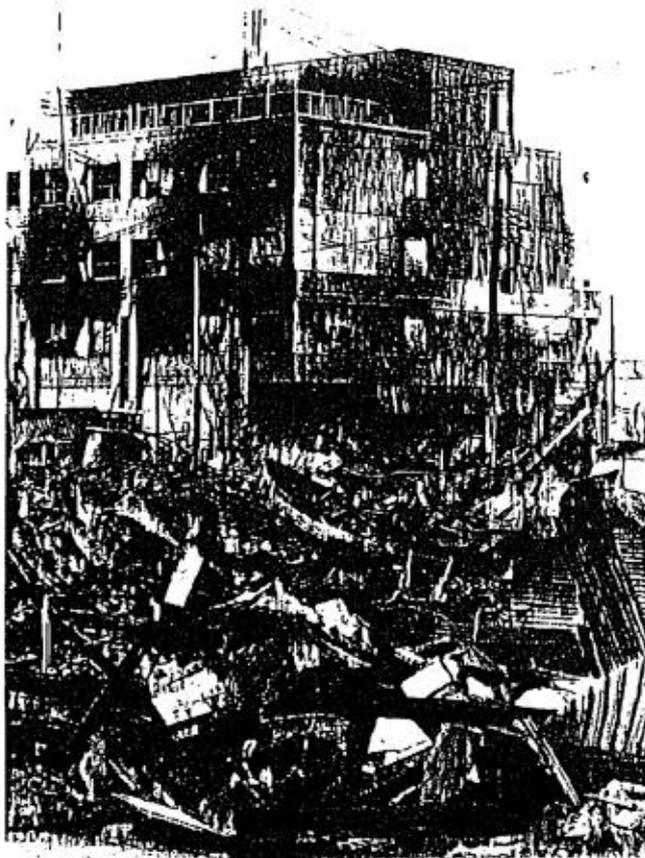
ところが訪問した基地局の運用状態を見て「あれー僕らの考えてることとちょっと違うな。」というようなことがあって、此処にも書かれていますが、それぞれの所であまりうまく運用が出来てなかったのではないかな。

そして1日だけ行ったのでは、その事はあまりわからないだろうということで、何処か近くの方でないかなと、言ってる時に西宮に無線機はあるけれども、オペレーターが居ないというようなことを知りまして、そちらに打診したら、「やってくれないか」ということで、緊急の幹事会議を開いて2月12日に開局の予定を決めました。

災害現場はアマチュア無線運用だけの活動は不必要

そのなかで何を目的とするのかということで、此処に『運用目的』というのを1ページ目に書いてるのですが、『アマチュア無線運用を主目的とせず、一般ボランティアに参加をして、震災災害復旧支援活動のなかでアマチュア無線を運用するものとする』と、この目的でやろうと。アマチュア無線を運用しにいくのではないのだと。これを全員が承知の上で活動に入る事を全員に確認して頂き、ボランティア活動に入りました。

此処で運用したのが436.72MHzです。それで非常時のアマチュア無線をど



火災でガレキ化した住宅跡と中が焼失した耐火建築

ういう具合に、それを運用して感じたかというのが次に書いてあります。阪神大震災でアマチュア無線の運用で思ったこととして『日頃からローカル局と交信をしていること』ということが、8J3AMRを運用してみても一番よかったですと感じています。今ナガサワさんが言われたように「もう少し横の連絡が欲しかったなあ」というのは僕らもそれを思ってますけど、僕らのグループは横の連絡はうまく出来ていたのではないかなと、絶えず日頃より運用してるから。

ナガサワ：

いや、被災地域の中の防災は僕

らで出来ます。外からの援助が来ないからね。

コナカ：

それと、ローカルが運用周波数の運用状況をよく知っていること、メイン付近はどうなんだとか、呼び出し周波数はどれがいいとか、というようなことをやはり必要だと。

それから混信のなかでもお互いに配慮しながら、交信が出来る交信術を会得してもらえたと。というのはこれはアマチュアですからね。消防のほうをされてる方は業務であればその周波数にその声しか入らないのですけどね、アマチュア無線は混信のなかでもなおかつ必要事項を送ることが出来るのですよね。そういうようなことを絶えず会得をしておく、それから交信不良時は「丁度いま交信出来なくなったから、お前ら電波止めや」というようなことで止めてもらう。それがとれるようになればそれでいいわけですからね、そういうようなことを、やっぱりやっていけないといけないのではないかと。

それから周波数帯は430MHzのFMモードがいちばん最適であったと書いていますが、そしたら僕らが今までどのようなことをやってきたかと言いますと、毎週土曜日キー局が主体に、大塚近辺各局がそれにサフィックスで応答するのです。キー局はサフィックスが確認出来たものを、10局なら10局とっておいて、それから漏れがないか等、キー局が確認のため順に全部のサフィックスを読み上げます。次にキー局はサフィックス指定で呼び、それに応答の局がフルコールサインで返してもらう。それからレポート交換する。こういうような一つのキー局に対する通信方法で、毎週土曜日にミーティングで行っていました。

その形態が8J3AMRの中に入り、基地局で立ち上げ、それから各ハンディー局が出た場合に「ハンディー局同志で直接連絡をしてもよろしいですか」というようなことを基地局に申し出て、それで基地局はワッチに入る。仮にそこにモバイル局が入ってくれば小電力のハンディー機同志がとれなくなる。いまハンディー機同志で交信しないといけないから基地局から「モバイル機は電波止め」の指示を出します。というように連絡を取り、こういうような通信方法ですね。こういうような方法で僕らは西宮でやりました。

いちばん最初に入り込んだ時は、2月11日でもうだいぶ整理されておったのです。僕らがその前にもっと早く立ち上がってないといけない。しかし1月18日以降に僕ら個人で単車隊を神戸に走らせ、これも1200MHz、430MHzでつなぎ、安否状況等の連絡をしていましたが、今回の非常通信基地局の運用は今まで行ってきた事が応用されたので非常に足しになったのではなからうかと。

それとJARLの関西事務局が言われた「活動の日にはこれぐらいでないといけませんよ」「平日でないといけませんよ」と、いうように設定をされた人、ボランテ

ィアに参加が出来なかった方々が多く訊ねてくれましたね。遠くのほうから。

2種免許が要するという時には、自衛隊の方がとんで来てくれました。「僕がやろう」と、そういうなものもたくさんありました。そして、社会福祉協議会に「ちょっと眼鏡が壊れたけど、眼鏡屋さんが開いているところがないか」とか、「薬を買いたいけども」「電化製品の修理屋さん何処かないかな」と、というような問い合わせが非常に多くなってきました。そこで無線家は西宮市内の開店状況を調べる為に日曜日の日に大勢の方が一堂に出て頂いて、地図で「貴方はこの地域を調べなさい。貴方はこの地域を調べなさい」と自転車で移動して頂いて、いろんな情報をとって頂き、そういうようなものを一つのページにして、更に地図上にそれを書き込んで、この地域の自転車屋は青丸、銀行は赤だと、病院は十字がついているとこだというようにマップを作りました。

外部からの問い合わせに即その分の「電話番号は何番で、眼鏡屋さんがありますよ」というようなものを作ったり、いろいろなことをして、「アマチュア無線家の活動とは、動きの早さ、要求に応じて先取りをやって頂ける」ものだとボランティアのセンターの方に非常に重宝されました。そういうような状況が此処に1冊の本としました。開局当時には、必ず此処に書いてある「基地局オペレータをする人は必ずも少なくとも前日分のを読んで下さい」と、いう申し送りを作りました。

僕らもこのような経験がございませんので、ここで一応勉強をしようと、勉強をするということが、やはり真剣になりそれが僕らの為にもなるし、いま現在被災されて困ってる方々に少しでも役に立つのではなかろうかと、こういうような主旨の元で行いこのまとめた本は関西地方本部に渡しています。

それからこれの報告書は全部JA3YRLを通して、こちらの本部に来てるはずなのです。このなかで書いてるようにFTZ・FM愛好会が一般支援局としてこういうように開局したと、それから基地局の心得はこうであるとか、そういうような事を一応全部書いてあり、それを皆んなが見てオペレーションする。此処に書いてあるこの報告書が、社会福祉協議会の本部のほうに、毎日、毎日、報告するのですね。

こういうような活動をしてきたなかで、いちばん問題になったのは周波数の問題もありますけども、ただ、立ち遅れたというのが非常に僕らも待ちの姿勢があったのではなかろうかと、もっともっと僕らが積極的にやらないといけないと反省しています...

非常時には早くアマチュア無線連盟の方が音頭をとられる。その中でどういう具合にしてグループを動かしていくんだと、それから報告書の中でもボランティア活動とアマチュア無線家とのつながりというのが、ちょうど真ん中辺に



避難場所での日赤医療チームの巡回医療

入るんですけども、倒壊家屋を発見してその中におじいさんがおられてというような時に、どんな手段でアマチュア無線を運用したかというの少し書いてあるんですよ。

この中で一番最後に、愛知県とか長野県とか大阪とか、いろんなところのボランティアの方々がグループになって動かれたときのアマチュア無線運用についてコメントしています。の中で一応、「現地本部のアマチュア無線のスタッフさん、私たちを支えてくれて本当にありがとうございました」というようなことで締めくくられてるんですよ。

先ほどからアマチュアの無線の運用、免許の事の討議がされましたですね。それも僕らの方でもアマチュア無線のコールラインを持っていない方々も運用の対象にしたことがございます。それから毎日毎日の運用形態はこのようにして8J3ADRが、どのような運用をしたかというのの一覧表で載ってます。

「実は電波管理局の方から言われてきたんですけど」ということで、いちやもんというよりも訪問された方がございました。「無免許運転じゃないけど、運用してるんじゃないか」と。「実情はこうこうなんですよ」それは今言われたように「僕が皆責任を持ちます。この分について以後何かありましたら、できるだけそういうような運用は避けてますけども、実情としてそういうようなことが耳にさわったこともあるかもわからない。それがどうこう言われるんだったら、最後に終わってからJQ3NVKということで電波管理局に実際に書かせてもらっていいです」

訪問されたその局は僕らがよく知っている局なんですよ。実は「お前がやってるんやったら…」というような形で一応話はまとまりましたが、その辺がやっぱり横のつながりの良し悪しです。「よくわかるけれども、私らの耳にそう言われたら動かないとしゃあない」と。

それでチアークラブといって、コリカさんもよく知っておられると思う



アチコチに入浴サービスの案内



被災直後の体育館での避難状態

んですけれども、障害者の輸送が今度はものすごく必要になってきたんですよ。病院へ連れて行くとか。そうしたときに目黒の方でチアーキャブを動かすグループがございまして、神戸市の方に打診したそうです。神戸の方ではやっぱり受けがあまりよくなかった。それで東京の方に帰られたが実は「西宮にアマチュア無線が開局されているはずなんだ。そちらの方を訪ねられた方が話がまとまる」のではないかということで、その会長さんが来られました。ササキさんという方なんです。特殊な車を運用されているボランティアグループなんです。それでその人らも僕らを訪ねて来られて、社会福祉協議会の方とお話をして、それからそれを運用し、多くの障害者の方を病院に運び、入浴に行く等のいろんなことの通信網の確保。

今から思えばアマチュア無線でないと出来きないことは少なかったですね、あの状態では。それでも何かと言ったら、アマチュア無線家がそういう具合にしてお手伝いできた。それからアマチュア無線家の心の通信、日頃の心の通信はこの大震災で崩れることがなかったなということ、僕らのグループ活動で知りながら、アマチュア無線家の心の優しさというのが西宮市の現地の方々に伝えられただけで、僕は十分ではなかったかと。こういうようなことを思ったりするんです。

西宮のここにはボランティアとして各地域の社会福祉協議会のメンバーが集められ全国から送り込まれるんですよ。そういうような方々と同じく、アマチュア無線の運用がそれに活用できた。これは約5年間で900局との交信が出来たのもこの仲間があったからです。それもメイン周辺です。

「アマチュア無線クラブで特定周波数を持っていないそんな乞食アマチュア無線グループなんか通用せえへんで」とか言われるんですね。周波数を持ってないクラブ局、そうか乞食か「僕は服はボロでも心は錦ですよ」その辺がやっぱりこの3エリアの実態なんですよ。

有坂：

本当に持っているアマチュア無線って見たいですね。どういふのを持ってるか。

コナカ：

いやいや、それでも言われますよ。

有坂：

何か証明書でもあるんですか。

コナカ：

「これは原会長からいただきましたコールサインですよ」と、現実に言われますよ。原会長の方から「この周波数を使いなさい」と言われたと言う京都の局もあります。



総合病院内に臨時個人医院が併設

宮本：

「日本橋へ行って、おれはこれを買うてきたんや」一時そういうことがあったんです。「この周波数買うたんや」そういうのがね。

普段から正しい運用の積み上げが非常の場合役に立つ

コナカ：

それで何かと言うと、やはり普段からのそういうような運用が必要だと。

ちょっと今日来られなかった僕らのグループの、僕は一番年寄りやから文句言われても恐がらへんから、「おいっ」と言い返せやということで代表をさせてもらったんですけど、いろんなことがありましたですよ。家に来られて「おーおー」と。「来い、来い」と来たら、「あはは」と言って帰られましたんですけど。話せば皆わかることで。僕はそういうようなことで代表として話をして、皆サブの方がしっかりしてるから僕はこんなでも上手いこといくんですけれども。

その中でこれからの運用というので「今回の非常通信の経験から、今後のローカル周波数運用の課題を見つけ出し、アマチュア運用に関して連載を予定します」ということでこの19号



自衛隊による給水を受ける被災者

で書いてます。それからこれが20号で出そうとする記事なんですよ。大体『ひまわり』というのはこの3エリアで400枚送りますので400局がこの文を見ることがです。ちょっと下手な代読ですけども読ませていただいてもいいですか。『備えよ常に』ということですよ。

「過日、ミーティングでJQ3NVKを中心に、趣味としてのアマチュア無線のあり方と、非常時の対応について話をしているときに、JE3CDV局が、『芸は身を助ける』ということわざを引用して、自局の考えと意見を述べられるのを聞いて、私はもっぱら聞くばかりであった」、というのがJQ3TWQ局だった。

「5月号ぐらいになって、CQ誌や『JARLニュース』にもやっと大震災のときのアマチュア無線の実用や、ボランティア局の活動の本当のところの記事になるよう

になりました。そしてハムを含む官民一体の非常通信網を確立しようとする意見も見受けられます。1月17日以来、私たちは何をしようとして、何ができたか、これからはお先にはどうしようとするのか、深く考えれば切りのないほど私たちの受けたショックは非常に大きいです。

しかしよくよく考えてみれば、5年前に私が開局したときや、それぞれの皆さん方の開局のころを振り返ると、私たちの無線の目的はあくまで個人的な楽しみの充実であって…」、先ほども聞いて居ましたが非常時に何かに役に立ちたいという事でアマチュア無線を開局をされたと僕は聞いてるんですけども、それはあくまでアマチュアでございますので、個人的な楽しみ趣味の充実であると。「非常通信網を確立して、災害時に公的機関のバックアップをする」というものではありませんでした。もともとと申すことですね。

「少なくとも私たちのアマチュア無線の主目的は、未知の人々との交信であり、まだ行ったことのないところから電波に乗ってやってくる見知らぬ仲間の生活や、文化や風物を、だれの助けも借りずに本人たち同士が互いの技量を持って話し伝え合うということに尽きます」。それが交信術だというようなことなんですね。

「日々に行う交信は楽しく、いろいろと今まで自分が知らなかったことを教わり、また新しい興味深い情報を生で提供していただくこともよくあります。まれには自慢話を得々と聞かされて、うんざりとするようなこともあります」、というようなことで書かれています。

「それにしても天気の良い日にはかねて計画をしていた山に登り、一汗かいた後にやるCQ、CQはきゅっと冷えた麦ジュースとともに最高の気分を与えてくれます。もしものときに非常通信の手段としてという理由をつけて、少々装備が重くなるかもしれませんが、山登りの荷物をパッキングするときに、快晴の空の下で運用と思い描いているのです。まさかそのハンディー機で自分がSOSを発報することなどみじんも考えていないものです。

しかし私たちがその非常通信を行うべき事態に遭遇したのです。山の上ではなく、我々が町にいながらにして。そしてあの混乱でした」。

現実には山の上と違って、町の中で起こったんだと。

「いざというときに備えは世の中にいろいろありますが、ラジオ付きライト、コン、浄水器、インスタント食品と多く、それから保険などいろいろありますが、それらの中のどれだけのものが本当に役立ったのでしょうか。尼崎の防災センターに備蓄されている数千枚の毛布にしても、数十万人の市民に対しては、一人当たり小数点以下になっています。備えというものはそれほどまでに心遣ないものかも知れません。アマチュア無線も同じような運命であったなあと、私は考え込んでしまいました」。たくさんあるんですよ。実際に活用できなかったんです。

「なぜあの日あのか、私たちが普段から愛して止まない430FMが、あんなに混乱してしまったのか。他の周波数やモードはワッチしていないんでわかりません。それはそれぞれの局の被害程度の差による事態認識の違いにあったと思います」。

といいますのは、ここで書かれているのは、兵庫県はあんな状態だったんですけども、周辺の大阪の方では、「よう揺れたな」「ガラスが割れたな」というような程度だったので、実態がわからなかったというようなことをここに書いてます。

「地震直後の停電のために、暗闇の中に懐中電灯を照らし出され、ぼやっとした円形の光の中で一通り片付け終わったとき、そろそろ白み始めた空にやっと気づいて、窓から入る薄明かりを頼りに、リグを予備電源のバッテリーにつないで入感している。交信は主にモービル動かない、流れないことに尽きるレポート交換でした」

先程スギモト君が言われたように、本当にモービルステーションばかりだったと、こういうような実態だったと。

「反射的に私は不愉快と思いました。しばらく我慢をしてワッチしていましたが、ときどき火事や消防要請や、倒壊現場の救助要請がしきりに耳に入りますが、応答中継すべくまもなく、不要不休のレポート交換にかき消されています」。

これがその当時の現実だったんですね。17日、18日。

「トランジスタラジオを随一の正確な情報源として判断して、無線のボリュームを絞っていました。後々になって考えてみれば、放送局でも情報が混乱しており、そ



ヘリによる輸送が行われる



の様子は「毎日放送ラジオが何を伝えた」というような本のとおりでございます。彼らモービルが感じた、見たことも現実であり、受信している私たちに伝えるべき情報であったと思います。しかし事態はよい方向には向かいませんでした。なぜなら家屋が倒壊し、けがをして、惨状の真中にいる人々はすぐに非常時態勢を感じても、それを伝える設備と手段がなく、逆に停電もなく、いつもどおりであろうとする多数のモービル局は、ラジオも聞かず、自分の目で見るとの以外の情報をすべて断たれ、全体の中で自分の役割や立場の位置関係がわからず、ただただ車が渋滞して動けないという、自分自身の非常事態から脱出するのみに気を奪われて、正確な情報発信源になるべき点に気づけなかったからだと思います」。

このときに、だれかがコントロールをして、そのモービルステーションからの…。

ナガサワ：

それはできないよ。被災者の現実からすれば、僕は宝塚で被災者ですから、そんな余裕もないし、出来るはずがないでしょ、家が壊れてるのに。どないしますの、そんなもん。

コナカ：

いえいえ、ちょっと最後迄聞いて下さい。

ナガサワ：

できないよ。自分が家が壊れていて、悠長に無線機持って行って、「助けて下さい」と言うやつおらんよ。

コナカ：

いやいや、聞いて下さいね。これだけ読んで僕の意見は終わりたいと思いますけれども。

「いざというときに役立つものは、結局そのモノだけでは役に立たない。しかしいざというときに、どう考えればよいかという点を常に頭の中に入れていれば、おのれのなすべきことはそのときその場で必然的に導き出されるのではないのでしょうか。FTZが今後5年間の活動基本の中に非常時の通信ネットワークの考え方を入れるのも、このネットワークで公的に役立つべきだと考えるよりも、そういった活動をしなから、個人個人の局が考える力、行動する方法、取り込んでいく姿勢をつかんでいけば、それらの総合力がいざというときに役立つだろうと思うからです。

『備えを常に』というスローガンはボーイスカウトのモットーです。私たちが日々無線通信で楽しく過ごすことによって、とっさのときに判断力や行動力を常に備えておきたいもの、まさに芸は身を助けるというふうに、普段からこういうようなことを考えられるような運用をやっていってれば、そのときにだれかが主体になってすれば、こういうようなものの連絡網は必然的にできるであろう」。

このように、これが地震に備えを常にということ、僕は僕らのグループとして、

今後そういうようなものを。ではどういう具合にするんだ。今日はそしたら関西電力の電気を使わない日やと。自分で非常電源を確保しなさい。それもしくは各地域に基地局を出して、その人たちにその地域は地域で交信をする。それを皆んなでまとめ合うという。これから先の5年計画でやっていき、ただアマチュア無線、今言われているように電話ごっこであってでも、その中で考える力といろんなことを想定しながらやっていこう。

会員の特典はカードの転送以外に何も無い

それと西宮の方で活動した中で、定点観測、兵庫県下でどこにだれの局がおるといふ通信網の地図を作りました。アマチュア無線を楽しみながら、いざというときにはそういうような運用に切り替えられるようにこれからやっていきたい。

その中で僕はこれを一言だけ言いたいです。「僕は本当はこの会には出席しない」とコサカさんには言ってたんですよ。「それでもそう言わないで」ということで。たださっきナガサワさんが言われたように、1エリアではというような発言があったように、430MHzのFMの通信に関してJARLの方で特に「昔はこうだったんですよ」、「ああですよ」というようなことで、新しく開局をされる方の指導、モラルの指導をしていただきたい。430MHzの「こんな恐い周波数」と言われた局もおられたんですけども、そうでもないですよ。一番オーソドックスなアマチュア無線らしい交信を。

そういうようなことを一つお願いして、僕もいろいろと皆さん方の意見を考えながら、またこういうような意見を持ち帰り、なにしろ2001年までは何が何でもそういうようなものをやってみたいと。

JARLには失礼でございますが、今のJARLには、僕らは本当に期待はしておりません。これははっきり申します。だからカードさえ送っていただければ結構だなど。それでも430MHzでのカードはものすごく飛びかっています。JARL会員は高い会費の7800円を出しております。同じ社団の日本自動車連盟では会員であれば故障のときにちゃんと会員金額があり、非会員との差があります。JARLは会員として利益をもたらすものは何もしてない。

宮本：

いろいろ貴重な意見をありがとうございました。

タニ：

実は私はボランティア活動が済んでから、にわかアマチュア地震研究者になりました。あっちこちの大学の先生のところとか学会の方からだいたいデータを集めています。だいたい資料とか集まったんですけど、一部この地図を、これはいろんなデータの中から抜粋してきたんです。

神戸で地震が起きたからあとしばらくこないという方がいらっしゃいますが、学者さんとか学会の話によると非常に危険な状況らしいですね。特に危険なのは、ずばりこの大阪、京都、山崎断層、この辺りが一番危険だそうです。この近くの活断層はこのような状態で、たくさんあるんですね。ここ大阪湾周辺にたくさん活断層がありまして、一番最後のページですね、これはこここの地元の中之島、この辺りに土町断層といまして、千里のコサカさんの住んでいらっしゃる所の方が活断層の分岐点になっているんです。大阪のど真ん中の土佐堀の辺り、中ノ島のところに大きな活断層があります。これは学者さんが実は神戸の震災の前にこの断層が一番危ないという指摘をされ、警告された地図なんです。むしろ神戸よりも先に大阪が危ないと言われていたところをごさしまして、神戸だけじゃなくて次は大阪とか京都とか。

京都は非常に行政の方が真剣に力を入れてまして、比叡山の上に震災カメラを備えつけてました。京都が全滅したときに、自家発電で全部テレビ映像を撮って、それを東京の方に電送するように手続きをやってます。もうだいぶ出来てますけどね。

はっきり言いましたらそんな状況であって、あまりそういうことを行政が言うと、みんな心配してパニックになったらいかんということでは言ってますけど、実際はだいぶ緊迫した状態なんですね。これは行政があまりかかわってこないけども、我々アマチュア無線家としてもやっぱり何かお手伝いしないと、態勢にそなえないといかんと思いますので、ちょっとこれをご参考に付けておきましたので。

サワイ：

実はあるJARLの会員さんから頼まれてきたんですが、新年QSOパーティーのサマリーが地震の折りに家が混乱しまして、やっと昨日これが見つかりましたと。これはいかように取り計らっていただけるんでしょうか。ここに罹災証明書がございませぬ。

宮本：

私、お預かりして帰りますけども、確か1月の分ですよ。

サワイ：

はい、そうです。

宮本：

問題ないと思いますよ。

一般的に小学生が「長き社会人」の範囲に入れられるか

サワイ：

それから先ほどタニさんがおっしゃいましたように、私の方は私自身が全部電話の配線を電電公社と交渉しまして、全部やり替えていただきまして、それで私とこらの地域も25軒というグループだけは別配線をお願いしました。

コサカ：

僕の方から報告と質問したいのがいくつかあるんですけど。

まず社団のアマチュア無線連盟という「社団」という公共性の問題について。これは公共社団法人ですから、どういふことを公共的な面で行っているか。

それからアマチュア無線コードの中に「よき社会人であれ」と書いてありますよね。社会的に知識の浅い低学年の小学生に免許取らせて、「良き社会人」の仲間に入りますかね。「よき社会人であれ」というのは、一般的な道例から言いますと、どうなんでしょう、やっぱり僕はその辺も検討していただかないといかんと思うんですよ。今回の非常通信に参加して痛切に感じとれました。

それは電波というのは、一般国民に全部開かれていると言っても限度があると思えますよ。車の運転だって限定されてますよね。無線もある程度限度を持たないと。

単なるマル暗記でパスする制度の試験方法で、年齢に関係無く免許を取らせるようなやり方したんじゃないかと思う、なぜならペーパー上の合格と、円滑に無線運用が出来る事は別だと思えます。細かく言うとアマチュア無線の運用は無線通信法規に基づいているわけで、この法規に非常通信の条項があります。この法規がまがりなりにも理解出来る年齢が最低の年齢と考えます。

次には、非常通信の運用問題に関しては、私はもちろん初期は個人々々の運用だと思えます。被災された人に最初から最後までやれというのはむちゃで、被災しない周辺の人がいかに早く立ち上げてどう協力していくかということ構築しなければいかんと思うんですよ。

だからその面から今回の震災を見ると、被災したところは兵庫県ですよ。被災しなかったところは岡山であり、京都であり、大阪であり、さあこの支部が役員個人としてでなく支部活動としてどれだけ動いて、被災した兵庫県をバックアップしたかどうか。この辺もお聞きしたいことですね。

私はどっちかと言うとアマチュア無線の運用を最近まであまりやってなかったんですよ。関西へ来てあまりにもひどすぎる運用で、運用するのがばかばかしくなっちゃって、中断したんですよ。

私がアマチュア無線運用を再びやるようになったのは、ボランティア活動で外国へ行ったときの連絡からです。島の中でのお互いの連絡をアマチュア無線を使っていました。ところがこれが今回の災害の非常通信等に大変に有効に応用出来ました。というのは、私の同じグループで活動した人が島へ行って、連絡網の活動をやりますから、そういう連絡のやり方を自然に覚えてしまうわけです。ちょっと普通の連絡と違うやり方をしていますから。

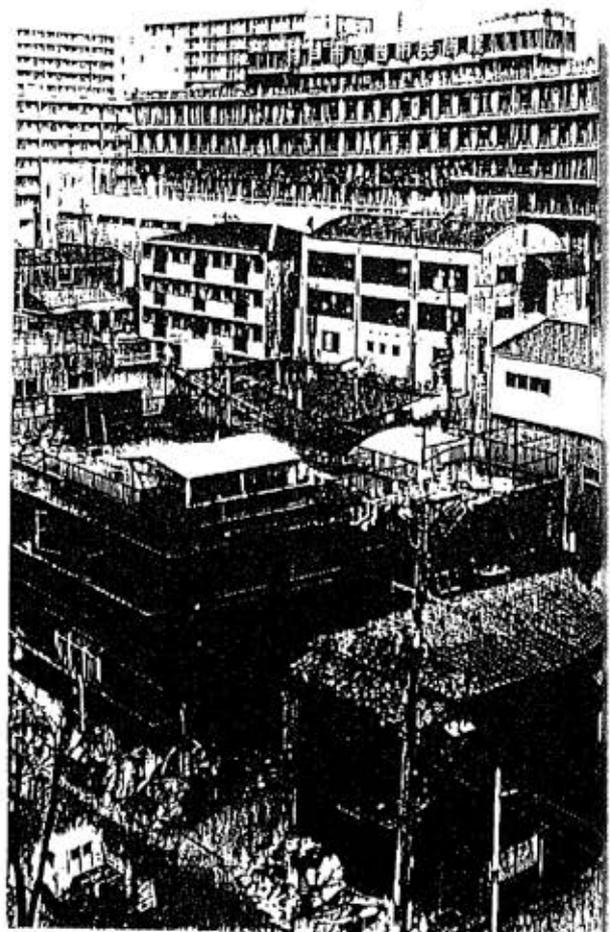
これは私事になるんですけども、私どもの所に来るべきドクターが震災で来られ

なくなっちゃったんですよ。それが長田区の西市民病院にいたんですね。震災で来られないということが朝電話で入って。「看護婦も出してくれ」と言われても、とてもじゃないそんなのは1日じゃ手当ができないんですよ。

これはアマチュア無線と同じように、ある程度日頃からそういう用意をしていればいいんだけど、用意は何もしてませんから、即あっちこっちに電話して「だれか看護婦一人空いてる人はいないか」と。やっと見つけると「一人ではいやだ」と言われ「二人なら行ける」というんですね。それで1日過ぎた18日の夕方に、単車2台で長田区へ看護婦を送りました。そのときに連絡用にハンディー機を持たせました。そのハンディー機を持たせた人たちが現地で安否情報をしてくれたんです。ところがバッテリーがいくらって言いましたかね、1個2千円か何か。現地で。バッテリーがなくなっちゃったから買おうとすると2千円だと言うんですよ。でもやっぱり買わざるをえないでしょ。

だからいくら被災した人と言っても、そういうことをやってたお店があった。実際に。だからすべてきれいごとにと考えると、被災したからかわいそうだ、かわいそうだというのはあるけれども、中にはそういうひどいことをやったところもあるんですね、お店屋さんで。

それでひよんな事から安否情報を行いました。混信の為にSSB帯の周波数をFMで使いました。長田区からどこか良い所がないかと言ったら、やっぱり六甲山の麓です。そこに単車を1台置きましてね。長田区からハンディー機で六甲山の中継局へ送り、六甲山から吹田の固定機に伝達したんですよ。吹田から電話番号を調べ安否情報を行ったわけです。これも被災した方は気が動転しているから電話番号はもちろん覚えてはいませんね。だから住所と名前を聞いて、それであとは104で電話番号を聞いて、「これこれの人は無事ですよ」と、辛かったのは「こういう方は不幸にも亡くなりました」等の連絡をしました。その連絡ヶ所は近畿地方を主体に640でした。ところがハンディー機ですから、「長時間運用すると発熱のため壊れてしまう



5階部分が押し潰された神戸市立西市民病院

のではないかと不安だらけの運用でした。結局やっぱりやって良かったというのは、その人たち自身も「ボランティア活動というのは一体なんだ」と。さっきコナカさんが言いましたように、無線を使うのは主じゃないんだと。「ボランティア活動をやる上での連絡を構築する手段としてアマチュア無線があるんだ」ということが、周りの人が理解してくれたわけですね。安否情報をやりながら。それが私は一番得るところだったんだろうと思うんですよ。

実際に活動した人たちが、活動から何を得たかという、その場所にいるんな人間関係が得られ、その活動が相手に喜ばれ、感謝された事だと思うんですよ。これにより自分自身にやりがいや実感として体験出来た事だと思います。しかしこのアマチュア無線を利用したボランティア活動は反省が多く、不満足な面もありましたがより多くの人の輪を広げて、社会的に認められました。この事からこれから先に非常事態等があったときに、この教訓を忘れずに次に継承して行く義務と責任があります。それがせめて被災者に対して満足出来る活動が出来なかったお詫びになるのかも知れません。

ネットワークの構築が非常時の情報収集に威力を発揮

皆さんもNGOという言葉も最近聞いたという人もいるし、昔から知っている人もいますが、海外協力のNGOの多くの団体が連絡を取り合いネットワークを組み災害救援活動に活躍した事は新聞等で見たとと思うんです。ですからそういうネットワークもいろいろ知る事も大切であります。

けど残念だけど、社団法人日本アマチュア無線連盟のネットワークというのはあまりないわけです。要するにコンテストだとか、そういうのは『JARLニュース』にいろいろ載ってきますけど、対外的ないわゆる情報網を集めるという意味においては、あまりというよりも、全然ないと言った方がいいんじゃないですかね。

ですからこれから先はいろんな団体と、そういうネットワークを作り何かあったときに情報を交換する事が大切です。これから先あまりアマチュア無線だけに限ってはいかんと思うんです。それは過去においてはアマチュア無線だけに限ればいいけれども、それはもう過去の話であって、今の動きの早い世の中を見れば、アマチュア無線だけに限られてはいかんと思います。もうちょっと前後、横のいろんな団体と接触して情報を出しながら、お互いに情報をもらいながら進めて行く情報網を作る事が大切だと思いますね。

宮本：

先ほどのアマチュア無線はよき社会人であるという、これはつまり年齢制限をすべきであるというようなご意見ですね。

コリカ：

私はですね。他の人はわかりませんよ。

菅本：

それは要望事項でよろしいですか。現状はどういう考えかという何かお答えが必要ですか。

コサカ：

いや、今お話しした事について検討する価値がありませんかと言うことで、今答えは
いりませんよ。

シゲムラ：

ただモラルをあまり言われると僕はアマチュア無線家をやってなかったです。僕自
身。

XXX：

私はアマチュア無線の運用を高校生の時代からやってるんですけどね、まだ当時は
非常に難しかったですよね。中学生でやっと県で一人通ったか通ってない時代でした
ね。今は非常にパスしやすい状況でありますよね。それはそれで結構だと思います。
小学生の方にも非常に優秀な方がおられます。これは事実です。問題は私はその後だ
と思うんです。免許を与えた。いかにフォローするか。フォロー態勢がないと思うん
です。そこが問題じゃないかなと私は思うんですけどね。

XXX：

先に免許をお取りになった方が、少なくとも若い方を教えてやると。

シゲムラ：

僕は更に新しいアマチュア無線家ですから、考えるのは免許制度をゆるめればゆる
めるほどリグが売れるのではないかとそういうふうに思っています。

ハシオ：

本来アマチュア無線連盟がものすごく魅力があって、無線の免許をもらった人が8
割ぐらい入るといようなJARLであれば問題ないけども、JARLができてここ
で免許を取らせるとかということになって、会費は上がるわ、昔の終身会員は8万円
やと、今は20何万円やと。そういう組織の上にあぐらをかいていると言ったら怒ら
れるけれども、そういうところが何となく…。

私らでもあまりこんなところへは出入りしたことないでしょ。今回初めてですわ。
ここでもいるんない案もあったけれども、極端に言えば兵庫県支部長の秋田さんの
地元からファックスで来るわけやね。

どこやったかね、西区の基地局では日産何号、三菱何号、やりましたわね。結局メ
ーカの名前を出すなということなんです。アマチュア無線で災害救助や言いながら、
メーカーの宣伝をしてるやないかと、ファックスが来よるわけや。地元ですよ。赤穂
市から来るんやもの。ここへ。

コナカ：

僕らの活動は西宮現地事務所に報告したものですよ、全くJA3YRLに関係なくてやってたんですよ。だから他の基地局の事情がわからないんですよ。

ハシオ：

JARL関西地方本部の肩を持つわけやないけれども、先ほども言われたように関西地方本部事務局では500人ほどの登録があった。それで電話がかかってくる。人員を派遣するのにここの事務長さんはそれに1日中かかってました。そうすると、「行ったら弁当あるんか」、「宿泊はどうするんや」と、こういう質問をしてくるわけや。だからそれは「自前で寝袋を持って行って下さい」と言ったら、それではだめやとか。又活動出来る日が土曜、日曜に集中するわけです。だからここのものすごく人員を派遣するのに苦労してましたよ。

コナカ：

現実はそのような実態が多くのアマチュア無線家だったんだなと。

ハシオ：

8割がたがそんなん。

宮本：

つまりあれなんです。すべてとは言いませんけれども、どこかの基地局にアマチュア無線オペレーターとしてのみ行って。おそらくそのつもりで行く人もおるんです。それで「無線や」と、「おれは無線で来たんやから無線以外のことをなんでせないかん」と。



宮本：

そのぐらいの程度の人がおるんです。全部とは言いませんよ。そやけどそんな人たくさんおりました。はっきり言いましてボランティアの中にもおりました。

ボランティア活動者の考え方にも問題はある

コナカ：

それで今タカヤスさんが言われた問題なんですよ。アマチュア無線はたくさんの方々に電波を広げられて、多くの方が楽しんで本当にすばらしい趣味ですね。それの免状を出す、それから今言われたようにリグを売る。実際に電波を出せる状態になったときに、アマチュア無線連盟はどういう様に運用等の指導をするか。

アマチュア無線連盟に入っているカード転送以外は何の得点がないですね。逆にアマチュア無線連盟に入れば、コールサインブックを見て住所もわかってしまう。というのは、アマチュア無線連盟の会員であるがゆえのハンディーを持って、僕は小さくなって交際をしているというのが。僕は最初から小さくなっていたらこんなことできませんから。新しい局長が出て来ると、その通信の合間合間で、僕は「ブレイクタイムを採るからそこで通信をなさいよ」「終わるまで待機しますよ」と言って僕ら待機しますけどね。

今度は反対なんですよ。だから今タカヤスさんが言われたのと、それからコサカさんが言われたのは。

アマチュア無線連盟としてそれらをどういう具合にフォローしていくのかということが。それが本当に良いマナーで、小学生の方でも、だれが出てもいい状態をつくれたら、そんな年代層は関係ないと思う。そういうことを今後どういう具合に努力をされるのか僕は聞きたい。というのは、そこら辺が1エリアと3エリアの差があるかというようなことなんですよ。

有坂：

今日は、今いろんなお話を伺って、いろんなことを僕は感じました。今日の目的はやはり災害ということが一番大きな目的だと思うんですが、その売りっぱなしをどう考えているか。社団としての部分と、ちょっと目的外になってしまうけれども含めてどうしてもお聞きになりたいとおっしゃるんでしたら、まとめて僕は今日の皆さんのお話を。

我々としては非常通信というものと、アマチュア無線連盟というもののあり方、アマチュア無線なのか、ボランティアが先にくるものなのか、全くそれに興味のない人たちから見た「アマチュア無線連盟はいつからボランティア団体になったんだ」という批判の声がどんどん聞こえてくるように思うんです。けれどもそこに精神の問題があると思うんです。アマチュア無線家は「よき社会人」という形の中に、や

はりどう網羅していくかなというようなことも、今感じておりますが、もしお許しいただけるならば、それを含めて、連盟としてはこういう努力もしております。ただでき得ることなら、「アマチュア無線連盟は何なのだ」と質問されたときに、「こうだから、おれはこうしたらいいんじゃないかと思う」という意見もつけていただけると、本当に参考になります。

ただ印象批判でやられますと、持ち帰って討議いたしますという答え以外出なくなるんです。そういうことを含めて、今までのことについてお話を聞いて、ちょっと時間が長くなってしまふかなという気がする部分もございますが、もし皆さん方の意見を出し尽くされたとするならば、ちょっと私の…。

宮本：

もうちょっとみんなの意見を出してもらってからにしてくださいませんか。

マジマ：

私、実は河内長野市というところからアマチュア無線の活動を営んでいる者ですが、月1回、市の同好会がありまして、市単位の集まりがあります。その中で震災者の報告が入ります。いわゆる3波が許可されたということを口頭で聞いたんです。口頭で聞いたんですけど、これが文書になって郵政大臣もしくはその他の何かの方法で公にされたのかどうか、その辺がまだわからないのでいっぺん教えていただきたいと思います。

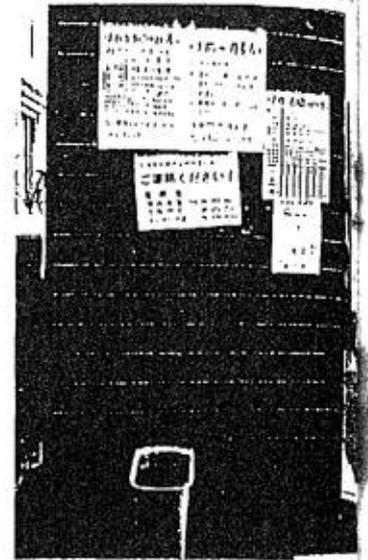
有坂：

3波を許可するということが自体が非常通信としちゃおかしいんです。通信全部オーケーのはずです。ただ連絡するのに便利だからどこに設定しようか。じゃあここにしようじゃないかと、衛星のところも使ってもらおうじゃないかと。非常通信なんだから。これ本当は許可いらぬんですね。やればいいんです、本当に非常の場合は。

ところが非常通信の中の解釈の仕方、非常通信であるか否かという部分、お弁当の配布、それからそういうのも非常通信にまつわる一つの枠ですから、そこいらへくると、「あんたが今やっているのは非常通信かい」と聞かれた場合に非常に解釈が困るんですが、そんな堅いこと言わないで、人権のお役に立つことはやればいいじゃないかという、個人的意見と、それから団体としてのそういう束縛とがあります。郵政大臣がその周波数を許可するとか、そういうことは非常通信法上ではございません。どこを使っても。あえて言うならアマチュア無線外でも。ちゃんとした報告書を出せば、それはオーケーだと思います。というふうに私は理解しております。

マジマ：

この3波については。



有坂：

約束ごとです。

マジマ：

約束ごとですね。したがって文書も何も…。

有坂：

ありません。

マジマ：

ないわけですね。

有坂：

お互いの連絡文書はありますよ。ここにしようという。上からこの周波数を使いなさいという指令が来たとしたら、アマチュア無線連盟は郵政省に文句を言うでしょう。

マジマ：

当然です。だから今回のような形で、またもしも同じことが起こったら、今回のような形で済むかということですね。私の場合疑問なんです。

コサカ：

ちょっと今のね、有坂理事の言うのを聞くと、文書と矛盾していると思うんですけどね。

これはJARL関西地方本部が1月28日付けで出したパンフレットですよ。ここには非常通信周波数の3波とはっきり書いてありますね。

有坂：

だから今回は非常通信周波数はここに設定しようよという約束ごとだけです。郵政省から云々ということはありません。

マジマ：

行政指導ということはないと。

JARLからの報道はより正確さが要求される

コサカ：

先ほどお配りした手元にあるパンフレットを見て下さい。関西地方本部の名前入りの連絡文章で「一部を使用することを郵政省から認められたので」と書いてありますよ。

有坂：

それは郵政省に、「私たちはここを使いますよ」と言ったわけです。

郵政が、「ここを使いなさい」なんてことはありません。断言できます。

コサカ：

郵政じゃありませんよ。アマチュア無線連盟の書類に郵政省に認められたとはつきり書いてあります。つまりJARLが「この3波を使います」と郵政省に話した事を、認められたと表現したのでは無いですか。

誤解が無いように書くなら「一部を使用する事を郵政省に報告しました」とすべきです。「認められた」のと「報告をした」のではその意味は天と地の違いです。

有坂：

連盟は、「ここを使おう」ということはいくらかでも伝達しました。文書でね。

コサカ：

どうも私の話を十分に理解して貰えていませんね。

マジマ：

それで個人的な意見も含みますけど、そういう文書が見られなかったと。

いわゆるネットワークが少ないために、立ち後れだったわけです、私の方はね。いろんな方から発言ございましたが、JARLはやっぱりメインとかその他の周波数を通じまして、もっとたくさんの方に訴えかけていただきたかったなと思います。

宮本：

はい、わかりました。

サワイ：

私、タニさんと組ませていただいて、非常通信周波数を阪南地方に全文送りました。

毎日送りました。それを聞かれた局が、また他へ流していただきました。

その努力は私はやりましたですけども、全部には行き渡りませんでした。

有坂：

要は文章にして流すにも、仲間うちに流すにも、回数が少なかったなというふうに言われてるんじゃないですか。

サワイ：

その通りです。

連盟は平時より行政以外に積極的に他団体との情報交換

タニ：

今後どこで非常事態が起きても、やっぱりアマチュア無線家は妨害というのを恐れずに。

「こんなのをやってますよ、みんな協力して下さい」と、一斉放送をしてほしかったですね。

有坂：

何局か知りませんが、郵政に頼んで上げてもらってるんですね。

ハシオ:

一緒や。発行したけど一緒やで。2日後ぐらい待った。

コリカ:

保険制度についてはJARL関西地方本部はそういう保険があるということを知らなかったんですよ。当時もう新聞に出てましたよ。ボランティア活動に大阪では保険を全額無料で入れる。ボランティアに登録して集めましょうと言って集めた団体が、ボランティア保険があるということを知らないことは、情報不足だと僕は言ってるんですよ。

ボランティア保険の問題も私の方から「大阪はこういうものがあるから全員これで入れてもらえば一切お金かかりませんから、全部やってくれ」と。「ただし二次災害のものに対しては面倒見られないから、自分でお金を払うんですよ」ということで、全局、全員カバーしてほしいということをお願いし実行して頂ました。やっぱりそういう情報収集が不足ですよ。だからそういうことに関しては無線だけじゃないようにしてほしいと。特に非常になった場合は、情報を多必要としますが急には集まりません。日頃からそういう対外活動もしておけば必要な情報を手に入れる事が出来、又いろんな情報を持っている無線家もいますので、それらの多くの人の助言を求めているかがでしようか。こんな事もお願いしたいんですよ。

海老沢:

よくわかりました。おっしゃるように。保険について今私どもいろいろ調査し出しまして、日赤の方を通して。方法論でもあるようなんです。今後の災害等で詰めようとしています。おっしゃるように保険は非常に大事なことです。PRも足りないところだなあと思って、私どもこういう状況だったから…。

有坂:

今回はPRが悪かったという事については大変いい参考意見としてお聞きいたしました。大いに反省することにして。

コリカ:

言葉だけの反省だけならなくていいんですよけどね。実際に動いて実行してくれればいいんですよ。

コナカ:

今タカヤスさんが言われた、非常通信という言葉ですね。私どものところは2月16日にもう災害復興支援局というような、非常通信から外れたような形で運用を始め



ボランティアの人が温かい給食を道行く人

たんです。これから今後非常通信というのをどこら辺までを設定して、いつまでやるのかというようなことで、「非常通信だから非常通信だから」というようなことのもめ事が少しあったような。僕のところはだから2月16日に切り替えてるんですよ。「災害復興支援局、災害を復興するのに支援しているから、みんな協力しろよ」ということで。だから非常通信がいつまでやるのかと。

宮本：

非常通信を狭義に考える場合と、広義に考える場合とで違うんですね。JARL側としては広義に考えて、すべて非常通信の中に救援活動も全部それに入るといふような解釈をしてるんです。

コナカ：

その辺がやっぱり一般のアマチュア局には少し煩わしいと。

宮本：

だからそれについては。

コナカ：

その辺を皆がやっぱりちゃんと理解していかないといかんのと違うかなと。

ハシオ：

それが結局災害地の神戸と災害の少ない大阪の違いですわ。

コナカ：

そうそう、そういうこと。

非常通信業務の終了に対しても連絡等の配慮が不足

サワイ：

今の話では、私らは非常通信はここまでということを決めてもらったら電波は出せません。動けません。ですからある程度復興ができた折りに切り替えると。幸いにしまして4月22日に楠神社で兵庫県支部が反省会らしき事をやりました、あの時点が一番いいと思いますね。大体めどとしまして。

コサカ：

私から言うわせると、連盟は非常通信を止める時でもやっぱり下手だと思いますよ。なぜかという、集めるときには新聞である程度集めて、それは組織と関係なくて、関西地方本部名で集めたでしょ。やめるときは何でやめたかという、組織の本部長・支部長会議で決めたということですね。じゃあ組織としてでなくボランティアとして個人的に活動していた人たちにはどう伝えたんでしょうか。情報がなからいつやめたかわからないわけで。こういう方法はよくないと思いますね。やっぱりやめるんだったら、その活動現場の人たちと同じく、活動を通して多くの情報を持った最初に集まった主な人にも聞く事が大切です。

有坂：

そうですかね、私はまだ、こことことはやめるけど、ここはまだ続けようという
ようなものがあるってしかるべきじゃないかと。

コサカ：

いやいや話の中身が違います。あのね、その辺が机上で指示、命令を出している
関東の方たちにおわかりいただけないところで、簡単に言うと関西地方本部長が召
集して非常通信をやったんでしょ。本部がやったわけじゃないですよ。関西地方本
部がボランティアを集めて、「非常通信をやりましょう」と言っって声をかけて、大
勢を集めて、それで各基地局ができていったわけですよ。

ナガサワ：

僕のところは違いますよ。

コサカ：

まあそういうところもあり、個々でやっていた所もありますが、公式的にはそうな
んですよ。

ところが今度やめるときには2～3局だけに聞いて、後は本部長・支部長会議の
機関決定をしてしまう。「もうやめようよ」と言っってやめられたら、活動してい
ただいた会員、非会員の人たちには情報が入らないわけですよ。やめるという情報
が入らないわけですよ。

そうでしょ。無線関係から離れてボランティア活動に入った人たちには連絡が
つかないわけですよ。

なぜもうちょっとより多くの人にわかるような情報を与えて、「やめますよ」と
いうことを確認した上で公式発表をしないかと言っうことですよ。やめるときだけは
支部長・本部長会議でやめちゃって、運用しているときは支部長・本部長なんか殆
ど出てこないでしょうよ。

非常時には非常通信委員会の設置を

宮本：

わかりました。つまりコサカさんの言う非常通信委員会なるような組織が最初か
ら最後まで全然なかったんですよ。だから機能しなかった。

すべてそれがうまくいかなかった原因だと思います。

コサカ：

そうだろうと思います。私は1月31日に本部長の職場に迄押し掛け「この時に
つまらない問題が起きると困るから、早く非常通信委員会をつくってくれと。そう
でないと支離滅裂な情報が飛びかい混乱を起こすこととなる」と、言っただけ最後
までつくってくれなかった。その様な組織は今後絶対に必要なんですよ。だっ

これは通常の組織で動くもんじゃないもの。

宮本：

実際動けないわけですからね。通常の組織も実際には機能しませんから。だから当然そのときにはちゃんとした一つの対応する組織があるべきです。

有坂：

今、我々アマチュア無線連盟としての災害プロジェクトというのは何を研究しているかという、一つダイレクトを作り、それを掲げておくと、どこの範囲でもこういう命令系統で行える。その中に終了のアナウンスの重要性ということを討議事項として入れさせていただきたいと思えます。今、何処が悪かった、何が悪かったという反省事項としてはよく理解できました。そういうところで一つご了解いただきたいと。

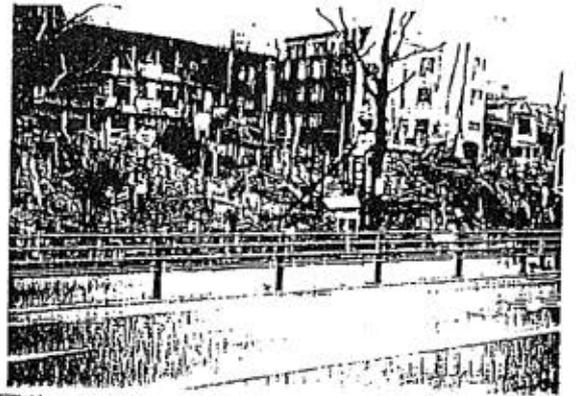
コサカ：

それからやっぱり社団法人ですから、もちろん皆さんそれぞれ仕事を持っていますよ。それでアマチュア無線という一つの趣味を持っているわけですね。さっき言いましたように、アマチュア無線が全部ボランティアかというところじゃないですよ。だから趣味であろうと職場であろうと、ボランティアの心というのは、お互いに持つべきものが日本の社会では育ってないから、なにかボランティアをやると「あいつはちょっとおかしいな」と見たり「すごいことやってるな」というような変な見方があるんです。どんな企業であろうと、どんな組織に入ろうと、そういう考え方はあってしかるべきなんです。だから強引にやれと言っているんじゃないですよ。

少なくとも連盟の役職を持っている人、これは選挙で選出された公職にある人です。仕事半分で連盟半分かという、それは僕はわかりません。でもその辺は区分けしてもらわないと。自分の仕事が忙しかったから、こっち側は立ち遅れたということをやったのでは、社団法人としての社会的信用をなくしますよ。

特に私が言いたいのは、今回なぜ日本アマチュア無線連盟の評価が得られたのか。それはなぜかという、残念だけれども支部長とか本部長、会長という組織の問題じゃないですよ。ここにいる皆さんたちが災害援助に対し判らないながらも、お互いに細かい努力をして、災害に遭われた人との交流、救援関係者の人との友好的関係の構築、つき合い等でお互いの立場を認め合い、上手く活動出来その結果で日本アマチュア無線連盟が良いことをしたと評価されたんですよ。

今日各自が話されたような各基地局の活動というものは、はたして連盟の手元に入り知っていましたか。これだけのことを皆さんが考えて、いろいろなことをやっ



国道2号線沿いの日本家屋だけが破壊された風景

たということ、連盟の方はどう評価していましたか。僕は残念ながらこの様な報告はなかったと思うんですよ。それで一部の情報だけで評価をして、それが正しいか正しくないか、僕はわかりませんが、今日この席上で役員の方は初めて活動の幅の広さと、何が正しくて、何が問題で、今後何をしなければいけないかということがおぼろげながら判ってきたと思います。私も反省の上に基ずいた今後の改善の方法論に大きなウエイトがあり、そうしようと考えています。この様に関係者一同による総括をしないで、単独でいろいろな評価をしたら、社団法人としては困りますね。

有坂：

何をおっしゃらんとしているかよくわかります。ただ、遅ればせながらではございますが、我々も本当にどなたが声なき声として動かれたのか。これはあの人がやっていたよという話がないと、まして東京でもわからないし、ここでもわからないと思います。それを教えて下さいと。その方の本当に裏付けがあれば、その方も同じようにに評価すべきであるという立場に今立っておりまして、大変時間的には遅ればせではございますが、そういうお願いの記入表をお配りし始めたという段階でございます。

今、大変いいことを言われました。ボランティアの心という事について。今そういったお話を伺っておりまして。コナカさんもそうだったと。「普段のトレーニングとハートの問題であり、慣れですね」というようなことに僕は終始するなと思って聞いていた部分があるんです。

日本人が言うボランティアという言葉と、世界で言うボランティアという解釈というものが、やはり生まれ育った風土の宗教的ものの考え方とか、教育文化も全然違いますので、その辺にボランティアというものがどういうものであるかということの定義が非常に個々に違う部分もあるかと思えます。ただ連盟そのものがやはりボランティアの気持ちを持って、少なからず役員はそおいうご意見に関しては全く異論はございません。今後それは我々も多いに活用していくべきではないかと思えます。

時間の関係でまとめさせていただきますと、やはり非常通信をや



避難所にいるお年寄りの健康を巡回指導している保健師

っている中で、いろいろな妨害が出たりするというようなこともございます。免許の生みばなしなのかということに関して、私どもが今努力している点についてお話しいたしますと、今まではアマチュア無線連盟の会員であるとか、会員でないとかいうところに終始しておりましたが、国家試験を受けて受かった人も含めて、皆さんに集まってもらってやろうじゃないかということで、ニューオペレーターズ・セミナーというものを今年は10カ所で、試行的にやっております。これを来年からはもう少し地域に割り振って、いわゆるニューオペレーターへの伝達ということに関してやっけていこうと、やっけていかざるを得ないであろうと。

ボランティアの心の啓蒙とニューオペレーターの養成

しかし、私は心の底では個人的にはおかしいと思うこともあるんですよ。アマチュア無線というのは何か教えないといけないことなのかという気持ちはあります。お互いに学び合うものではないか。いいことは盗んでも自分のものにするのではないか。趣味というものを人に教えないといけないことかということには非常に問題があると思いますが、今や弊害が出てきている以上、ある程度の指導はしなければいけない。先輩が後輩に伝えるという立場では、そういうものも。また、そこに参加しなかった人はどうするのだということもありますから、ガイドブックのようなものを精神面も含めて作っけていこうということが今やっけて動き始めています。

それから情報の交換ということに関して、他との連絡というのは、やはり我々は緊急通信の場合は主官庁、ローカルで言えば市役所ですね。そういうところとの連絡というのも普段から組んでいけるような体制を作る。これはサンフランシスコの災害のときの報告書をお読みになったかどうかわからないのですが、うらやましいなと思ったのは、基本的にコントロールステーションというのが普段から地域地域でトレーニングしています。アマチュアからぼーんと入ったら、ここは消防だ、ここは病院だと割り振りがあるんですね。これは市役所、赤十字と。ですから非常に動きやすくなって、これが日本で作れるか、作れないかわからないのですが、そこまでいけばいいなということで、今我々の中で討論しております。

これはペーイシスという向こうは電波法でうたっけております。ですから保険が入り、普段からボランティアで。先ほど「芸は身を助ける」と言われましたが、全く逆の言葉で「芸は人を助ける」と同じなんです。これがボランティアの精神であるということが基本的に入っけております。自分は何ができるのか。ピアノが弾ける人はピアノを弾く。無線ができるというのは日本人の中にあまり人を助けるという意識まではいっけてないと思います。その辺を啓蒙していかなくてはいけないなと思いますが、現実今の問題としては、同じ災害が東京で起きたとすると、ボランティアを募集したら銭はいくらくれるのだ。交通費は出るのか、宿泊費は出るのか、怪我

と弁当は自分持ちという基本的な線がないですから。

今言われたようにJ A R Lから断られたという、「何日出られますか」「1日だけ」、それじゃあだめみたいと言われたのは対処の仕方が悪いんですが、現にそういう方を送り込んだら、「俺は無線だけやりきたんだ」と。みんなが右往左往している中で、どっかりマイクの前に座っ

て批判を浴びるだけだと思います。どんな手伝いでもする、その中でその人は通信が出来るという能力を持っているのだと。そういう考え方の中で、そういう方を募集するという場の作り方がなかったのではないかということも含めて、検討をさせていただきたいと思います。

それから、これはお金の問題もありますが、難しい無線機ですね。メモリーを入れて、あっと言う間に電池がなくなったり、僕はA R D Fの無線機じゃないですが、水の中に落としてもいいぐらいの3チャンネルとか、10チャンネルぐらいの昔あったような無線機、ソ連に発注したらいいじゃないかと言ってるぐらいなんです。本当ですよ。そういう誰でもが使えるような無線機を非常用に何十台か用意して、各所に置いて置こうということも、実現できないで大ぼら吹いたと言われるといけません、それは本当に必要じゃないかと考えております。

まだお話ししたいことはいっぱいありますけれども、今日伺った中でこういうことは本当に必要なのだと思うことが随分ありました。

サワイ：

私、お願いがあるんですが。行政に対して必ずアマチュア無線連盟として連絡するようにお願いしたいわけです。情報を頂戴できるように、またこちらの情報を相手方の行政に伝えるようにしてやっていただきたいと。そして新聞社に対して、もっとPRをしていただいて、アマチュア無線家は胸を張って歩けるのだというぐらいまで向上していきたいと私は思っておりますので。

有坂：

おっしゃることよくわかります。今回車の緊急ステッカーをもらいに行こうと思ったら、アマチュア無線がそれに該当しなかったそうですね。僕はそれに非常に腹が立ったんです。やはり社会的に認知というものがあまりにも少ない、「あれはネクラのただの趣味だよ」という部分を脱していないということは大いに反省すべきで、社会的に認知されていくためにはどういうことをしたらいいのかというのを。



多くの病院では停電、破損等により機能が失われ

これは皆さん方じゃないですよ。「アマチュア無線がなんで移動通信をしなければいけないのか」と言っている人には180度考えを変えてもらわなければ、いつまでたっても認知されないと考えております。

高校生でも通関の腕章を着ける事で周囲が活動を認知

スギモト：

そのことで地震が起きてから、町中を歩いたりして自転車で移動していたんですよ。普通の人の見方が、アマチュア無線というのは趣味の段階で、流行語のオタクみたいなイメージがあるんですよ。それに最近テレビとかで盗聴器とかがよく出てきましたね。ああいうのでアマチュア無線のイメージがすごく悪いですよ。

初めに困ったのが、僕みたいな学生がやっていたら、「なんでおまえがやってるねん」という感じで、「大人の人に任せておいたらええねん」というような言われ方をするんですよ。被災後約2カ月ぐらい過ぎてから、JARLの方から腕章をいただき、あれを付けた時点でやっと周りの人から認めていただいて、その点ではすごいPRができたかなと思います。

有坂：

今回、私も長田区の区役所の1部屋に行きましたら、黄色い腕章を付けている人がいまして、聞いたら会員じゃないんですよ。だけど僕はそんなことは関係なくて、ご苦労様と。会員じゃないのに、JARLの人間が言ってもかみ合わない部分というのは全くなかったですね。そういう人だって黄色い腕章を付けて。私は無線士ですよという印で、僕はそういうときには会員か、会員じゃないかということはあまり考える必要はないと思いますが、やはり無線の社会的価値を上げるということに、一般社会の中で通用するものをもう少し大切にしていきたいな。それには基本的な心の問題が重要だと考えております。

コサカ：

今日はなんで兵庫県の方の方は此処に来られていないんですか。

宮本：

実はそれは私の方から今回は呼びかけをしたんですが、その際に兵庫県支部の方はもうすでに組織として十分に反省会は終わったと。しかし今日のご意見を聞くとこの席上に出席する事は当然必要だったと思います。兵庫県支部のやっといういろいろな報告というのは全部皆さんの所に入っているわけですね。

コサカ：

来ていません。これは兵庫県支部を外したところ辺の会議じゃないかなというような感じが今してきたんですね。

宮本：

そうじゃありません。

コナカ：

何かそんなようなニュアンスが少し出てきたんですね。

反省会は個々で行なわず関係者全員で意見を申し合おう

宮本：

そうじゃなしに、いわゆる兵庫県支部というのはしょっちゅういろいろな会議等にも支部長もきちんと出てきますし、そういう所で災害対策のチームの方も兵庫県支部からは話を聞いておりますので。それで今回はそれ以外の方から実際に話を聞きたいと言うことで。

サワイ：

それはどこから私共の活動の資料をもって、兵庫県の支部長さん、あるいは役員さんがこちらの方へ持って来られたわけですか。私らは一切言ったこともございませんし何処にも出していません。私らは私らだけだと思って、タニさんにご協力させてもらって、また一生懸命やりましたけれども。そんなことは報告になっているのでしょうか。

コナカ：

そこら辺がアマチュア無線連盟じゃないかなということですよ。

サワイ：

だから私が新聞に載せてほしいのはそういうことなんです。

コサカ：

今回の広範囲災害における救援活動は一支部の活動だけでなく全国的な規模に展開されました。その反省会は一支部等の個々でやるのではなく、関係者が出来るだけ多く出て意見を交換しまとめる事が大切であり、それが今後の活動指針になるのだと思います。

これは災害救援活動だけでなく、非常通信活動に伴う案件ですが先程の障害保険の問題で、今回は大阪府で掛けてくれたからいいようなもので、この次に何処かで事が起きたときにその都道府県が掛けてくれるかという事があると思うんです。そこで郵政省とアマチュア無線連盟の関係というのはどうなっているんですかね。といいますのは今回のボランティア保険がなぜできたかというのは、NGO団体が海外協力するときに平成元年以前は一銭も補助金等は国から出なかったんですよ。平成元年から急に外務省から補助金が出るようになりました。そこで年々補助金の見直しを各NGOが検討し、活動に対しての危険の保証を外務省に提言しました。初めは「保険まで付けられない」と言われたましたがいろいろな事情を説明して「お金の援助だけでなく海外へ人を出すと言う事は直接顔の見える協力として日本の評

価が上がる一担をNGOも協力している」ということで意見が一致をし、活動の危険保証保険として補助金が出るようになりました。この外務省の取り入れた保険制度が今回の震災で国内に準用されたわけです。

それと同じように、アマチュア無線連盟も郵政省と交渉していただいて、非常通信に対する予算をもらうとか、非常通信に対する連絡網を作るための予算をもらうとか。そうした動きから民意を官僚に理解させ、行政の意識の改革を側面的に上げて協力をする事もまた大切な活動だと思います。

それはなぜかと言うと、皆さんが毎日、毎日働いた内の税金が行政に行くわけですからね、その行政からもらう補助金というのは私達の税金の見返りですから有効に使って当たり前だと思うんですよ。それを要求しないで自分たちの予算の範囲だけでやっても自ずと限度がありますからね。当然そういうものは正しい使い道ならば、補助金は堂々ともらって、別な面で会員皆さん、非常通信で恩恵に預かるだろ不特定の人々に税金の有効な還元をする方法も考えていただきたいと思います。

これは今後の公共社団法人の採るべき道の一部ではないでしょうか。



地震後の火災で残ったアーケードの跡

タニ：

私どもの基地では140人ほどボランティア活動をした人がいましたね。それに対して、アマチュア無線連盟の方では礼状か何かを出したんですか。

宮本：

今のところはお出していません。リストも無いので。

コサカ：

リストの概略は兵庫県支部が全部持っているのはですが、それが連盟に届いていないということでしょうか。

タニ：

保険に入るために参加者リストはFAXで関西地方本部に送ってますね。

宮本：

保険関係のリストは入手しています。しかしそれを事務局として組織的に有効に活用し参加者リストの集計等には応用されてはいません。組み替えて参加者のリストの集計はやっていないと思います。

タニ：

では「ボランティア活動をしていただいてありがとうございました」という、何かそういう礼状みたいなものを支部長とか、関西地方本部長からの礼状として出してもらえませんか。

宮本：

今日までの段階では出しておりません。

ボランティア活動者に対し連盟は礼儀としてお礼状を

タニ：

ああ、そうですね。しかし全国から来てくれて活動したのですから礼状は出すべきだと思うんですね。

私は基地局が解散するまでに、関西地方本部長に対して「ボランティアへの参加証というのを出してくれ」と、雛形も全部書いて出していたんです。

しかしそれをやってくれそうになかったので、こういうボランティア参加証というのを個人的に作りまして、参加なさった全員に郵送しました。こういうものを出していただいたら、また何かあったら参加する気持ちを起こす事になるかもしれませんしね。

コサカ：

皆さんの各基地局は兵庫県支部に活動報告書を出したわけでしょう。

XXX：

出してません。

コサカ：

兵庫県支部が各基地局宛に活動報告書を提出してほしいという要請書類が来ましたよね。

XXX：

来てないですよ。

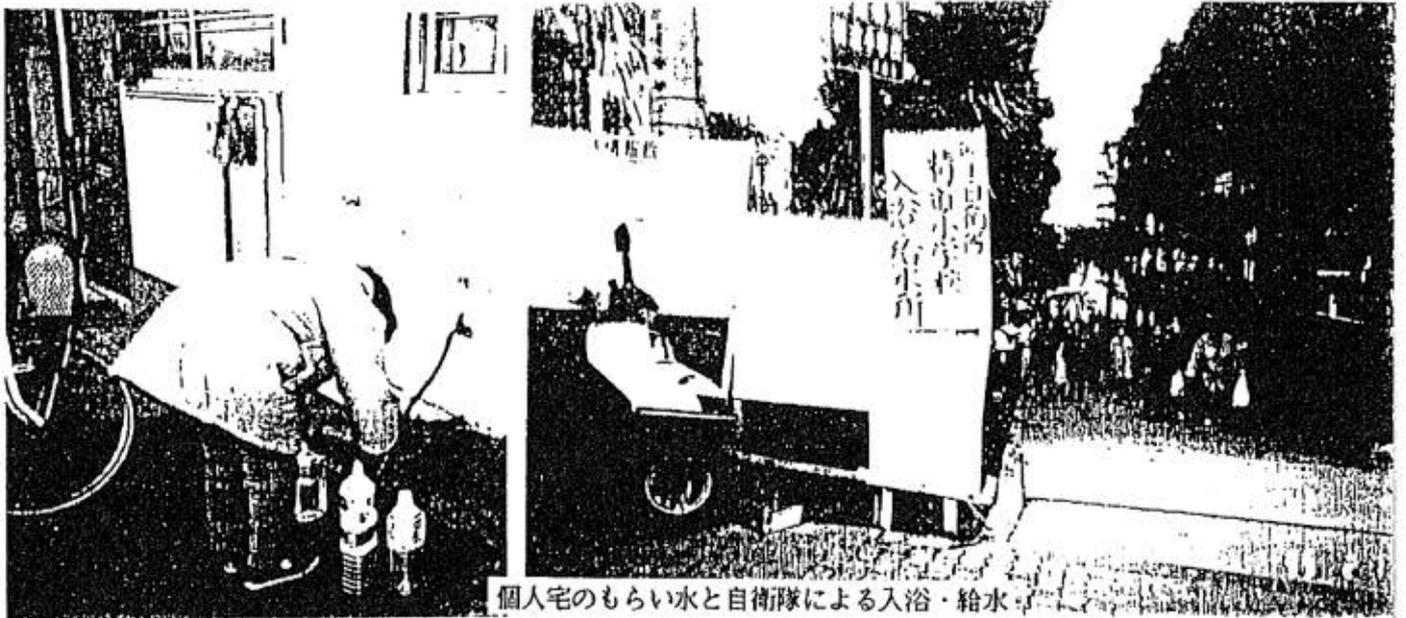
コサカ：

では兵庫県下の非常通信活動の反省会をしたと誓う兵庫県支部はどんな方法で各基地局の活動内容を把握したんでしょうか。本部が把握したと言うのはどんなふう

に提出されているか見たいものです。

サワイ：

明石にしましても、宝塚にしましても全く報告に上がってこないわけですね。それで東灘区、西宮市、芦屋市、灘区も気の毒でした。須磨区も長田区もとなりました。ここらはツンボサジキになっていたわけですね。



コナカ：

今タニさんが言われたんですが、僕らも礼状は出さないといかんと今リストを作っているんですが、僕らのところも宝塚もそうだと思うんですよ。関西地方本部でボランティア登録をされている方というとうと500人はないと思いますしね。活動されたとした方にも表彰した場合に、その局には行くけれども漏れる局も出てきません。だから僕は今さら表彰などしてほしくない。何か貰いたくて活動したのとは違いますよ。勝手にしていたから。それがアマチュア無線家ですよ。

コサカ：

どうして兵庫県支部が表彰されたり、富安さんが表彰されたんですかね。

XXX：

それは大いに貢献したからでしょう。

コサカ：

だれが活動を評価し推薦状を書いたんですか。

XXX：

ええ加減な絵空ごとですよ。

コサカ：

それだとかえっておかしいね。

コナカ：

そこら辺の曖昧さが僕が言うてるアマチュア無線。

この3エリアのローカルにおられる方々の心は、この大きな震度7でも崩れなかったということが証明されたらそれでいいかなと思ったりします。ただただ思うのは、先程言われたようにニューカマーに教えないといかんのかどうかというよりも、教える場が出来るように、アマチュア無線家が運用を少し整理をして「これは間違った運用ですよ」と言って、OMの方、昔から運用されている方、権威のあるコールサインの方々が出てこられたらしてもらいたい…。

ナガサワ：

昔の通信内容と今とではある程度、根本的には変わりなくても…。

サライ：

情報の伝達が近來大きく変わってきましたからね。

昨日在るところに立寄ってきたんですが、その話では、自薦他薦でもいいから、活動した人を吸い上げてもらって、その人たちに礼状をやってもらったらどうやという意見が出ていました。

それもいいにですが5大新聞か6大新聞に、小さくてもいいからコールサインか名前を掲載しては。スポンサーを付けたりして、また新聞社に協力をしてもらって、これでボランティア活動をされた方に対する礼を尽くしたらいいと思うんですね。

ナガサワ：

僕らもそうですね。皆さんボランティア活動をやっている人というのはみんなするの当たり前だと自認していますやん。自分らはボランティアだから、これは当たり前のことやと。通信でも、何も構えてやったわけでもないと思うんです。でもやっぱり基地局等の長になった者は、ついて来た人に対して何かの方法で出来れば公的な礼を尽くしたいんですよ。何かしてやりたいんです。

宮本：

わかります。そのことについては、皆さん方の意見も大体お聞きしたということで、専務理事の方から今からのJARLの対応といいますか、それを話していただけますか。

非常通信運用から連盟の運営の見直しも始まる

海老沢：

今日は私どもに対しまして具体的なご意見、ご提案ありがとうございました。連盟も災害時の対処になかなか思うようにいかなく、その点について実際にご意見をいただいた皆様方に、ご苦労とご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。

今後はこの様な体験を基に具体的な災害対策に対しまして災害プロジェクトを作り

今検討しております。

私も今伺っていて、災害の非常通信を一つの契機として、アマチュア無線の基本的な問題点が非常に浮き彫りにされたのではないかと思います。実際に連盟でこれらの問題点が直ちに全て解決できるという事には行かないと思います。しかし何事も前向きに取り組まないと変わらないということで、非常に大切な話し合いだと思いました。取り分けマナーの問題、免許の問題。今回非会員の方が協力してくれたりした問題ですね。それにしましても連盟としてはこれらの対処にたいして今まで非常に動きが少なかったと思います。

多少余談になりますが、私は実は3年前まで東京のラジオ局におりました。定年になりまして、アマチュア無線をずっとやっておりました。コールサインが古いだけで、今日は耳の痛いお話を聞きました。考えてみますと私がラジオ局にいたときにはほとんど連盟本部の方ともつき合っておりませんし、マナーの指導とか、そういうこともやった覚えが申し訳ないんですがないんです。好きなことですから自分自身だけで楽しんでやっておりました。

ただ、ずっと何十年かアマチュア無線に携わったものですから、定年になったし時間もあるし、そうだアマチュア無線に何か恩返しをしなければならぬ。どうしたらいいだろうか。時間もあるし、事務局のお手伝い出来るなどということで「事務局の仕事を手伝います」よという話で事務局に3年前に入りました。

私は外国通信が多かったものですから、国際課に行ってくれないかということで始めたわけです。

連盟内部にも問題が山積、出来る所から手を付ける

正直言いまして連盟の事務局に入って、こんなに問題がいっぱいあるのだということを感じていませんでした。実は恩返しができないかなど入ったのですが、これは大変だと。ただ何十年か私も個人的にアマチュア無線を楽しませてもらいましたから、やはりやらなければいかんだろうと思っております。たまたま専務理事をやれということで、荷が重いと思ったんですがいろいろな事情もありまして1年になります。いろいろな意味で今勉強しています。それから今までのお話で問題点がたくさんあり、その中には簡単に解決できない問題もあるなど。

さて1月17日にこういう事態が起きた。正直言って私も非常通信を本当にどういうふうにやるべきかということは経験がございません。いろいろ考えて、今回の神戸ではこういう地形からハンディーとレピーターというのが一番非常通信の災害支援復旧の手伝い出来るのじゃないかということで、郵政と相談してこういう形になったわけです。

しかし実際にはハンディー機をいくら用意しても、実際に動いてくれる人がいな

かったら、全く何の役にも立たないわけですね。その辺は実際地元におられる方々のご協力を始め会員、非会員問わず自発的に動いていただいた。そういう方々の中には寝食も忘れてやられた方もおられます。また1日か2日という方もおられました。が特質としては若い方が本当に熱心にご協力されました。私も何回か神戸に行き現場で活動しているのを真の当たりに見させていただきましたが本当に関心いたしました。

今お話にもございましたが、そういうふうにご協力いただいた方に「挨拶もしないとはいったい何事か」と、おっしゃるとおりだと思います。

もう一つは、今回アマチュア無線が社会的な貢献というものでそれなりに評価していただいていると思います。それはここにおられる方を始め、実際に活動していた方の結果だということもわかっております。その感謝の意を含めて遅まきながら連盟として活動した方の全員にお礼をさしあげようと、全員の方々には表彰状、非会員の方々には感謝状をさしあげる事を、ついこの間の連盟の理事会で決まりました。

まずは遅くなり誠に申し訳ないと思いますが連盟表彰ですので、推薦していただく手続きとして関西地方本部長とか支部長という方には文書で流しました。それだけでは必ず漏れが出る心配がありますので、今後のJARLニュースに表彰の自薦、他薦の願いをし、阪神淡路大震災で非常通信にご協力された方々はぜひ報告書を本部に直接提出して下さいと頼んでおります。それには、もちろんコールサインとお名前と記入し、「どうのご活動をされましたか」とか、「活動の日にちぐらいい」と、ごく簡単ですがそういうことで、実際にやられた方に漏れのない形でさしあげたい。これは当然会員、非会員を問いません。そんな形で、さらに漏れがあるといけないと思いますので、今日のこの場面をお借りしまして、そういう形で協力していただいた方のリストをぜひよろしくればいただきたいなと思います。

コナカ：

私のところでしたら、兵庫県の支部長宛に送るわけですか。

海老沢：

それでも結構ですし、そうじゃなくて直接連盟本部でも結構ですから。

宮本：

私も直接皆さんにお渡しする用紙を用意しておりますので。別に府県関係ございませんので。



海老沢：

そんなことで、本当にそういう意味では決して十分ではなかったところもあります。反省も非常にたくさんあると思います。

今後の災害にたいして今災害プロジェクトが発足しましたので、今日いただいた各種の報告書、パンフレット等を是非使用させて下さい。

コナカ：

今思っているんですが、この時期になって今更そんな表彰の事を言ったら、どこからやいやい言われて、そういう事をしたというふうにしかな受けとれないんですよ。僕らのグループはそういうグループじゃないんですよ。今日来ている皆さんも表彰を貰いたくて活動したのではないですよ。

ナガサワ：

僕らでもそうなんです。それでも手伝いに来てくれた方にやっぱりクラブとしては報告書しかできないんですよ。僕らは協力してくれた人に報告書をあげたんですよ。その他に公的に何かしてやりたいというのが僕の人情です。だから遅れても何でもいから、何かしてやってほしい。

コナカ：

僕らは今度8月27日に60から80局ぐらい集まる会合がありますが、その中で、これからの運用について、「こういうことだったが、これからの運用についてはこういうような運用をする」からとか話し合いをします。僕はアマチュア無線、まず楽しみです。その楽しみの中で何かの役に立ったならそれでよかったと思います。アマチュア無線家がこういうふうに活動したんだというようなことが社会的に知れたらそれでよかったんです。弁当がほしいとか、そんな人と一緒なんですよ。

ハットリ：

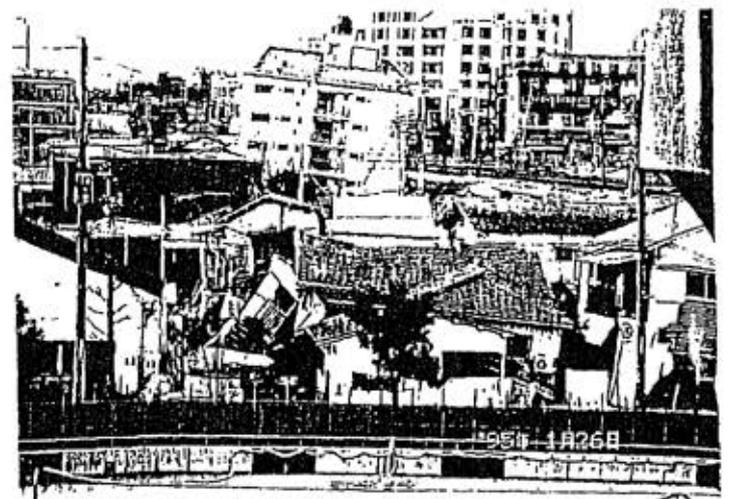
今さらと言われますが、今さらと言われるのは被災地の外の人言うことです。私らのように実際に被災している人間、私は正直に言って今も避難所に住んでいます。そんな人間に今さらと言う言われ方をされると困るんですわ。

コナカ：

違うんですよ。

ハットリ：

今さら表彰ということはないでしょう。結果的におたくらは外から見ているから、そういうことを言うんです。実際に被災者は今からですもの。今からどうするか



建物が傾き又破壊された状況

という考えなんです。

コナカ：

違いますよ。考え方によれば連盟表彰は今日のような会議がなければ出来なかったと思われませんか。

表彰状の乱発は発行団体の品位を失いかねない

ハットリ：

僕ら被災者に言わせると早い方です。外の者はそう思いません。

コナカ：

違いますよ。いいですかアマチュア無線の非常通信運用における表彰は5月に一度行い常識的には皆さんはそれでもう終了していると思いますよ。それが表彰の数カ月の経過後に又思い出した様に表彰をやり、「今さら」「何故」と言う事にもなりその「今更」で、貴方の言う復興のそれとは全く違う話ですよ。

ハットリ：

被災者は精神的な復興ができていませんもの。

コサカ：

私がさっき言ったように、5月の全国大会で個人と兵庫県支部を表彰したでしょう。非常通信の終了についてのやり取りの関西地方本部長との話しの中で表彰についてこんな話がありました。「今回の非常通信に関して表彰状とか感謝状というのをやるいろいろな問題があるからやりたくない」と。私はそれに対して賛成したんですよ。「そうだ、いろいろな人がいて、いろいろなことをやっているのだから、そういう人に対していちいちやったら、漏れた人はどうするんだと。その方こそ問題が大きくなる。ならば、やらないならやらない方がクリアで賛成します」とこれはお互いの了解としての善意の暗黙の約束ごとだと思います。。

よその団体でも今回の災害に対して協力したからってって表彰状をバラバラ出した団体はないと。しかし蓋を開けたらその話と違いJARL全国大会で2局表彰されたでしょう。だから問題だと言っているんですよ。

なぜ5月に表彰し、今更思い出した様に又表彰があるのかということが、さっき言ったように、正しい全体像を掴んでいないのに誰が、どんな根拠で推薦したのだと。これはやっぱり誤解を生じさせた連盟が悪いですよ。

タニ：

先ほどのことですが、例えばボランティアに来てくれた方は若い学生さんが多かったんですね。私が参加証をなぜ出したかと言いますと、最近の学生の就職で、あなたは学生時代にボランティアをしましたかとかいうそういう条件があるんですよ。少しでも来てくれた本人たちに有利になったらと思って、ボランティア参加証を出

して、「面接試験のときに聞かれたらこれを出しなさい」よと言って。

コサカ：

支部が1つ、個人局が1つ表彰したかということですよ。だれがこの推薦状を審いたんですか。理事の方から説明していただけますか。

有坂：

この表彰は推薦状というものではなくて、表彰規定がございまして、表彰なのか、感謝状なのかがございます。関西地方本部長の島さんが理事会に出席されて、その場で「私はこの表彰には反対です。なぜならばこういう約束をしてある」ということを伺っていれば、それらしく評議したと思います。けれどもそれは大変申し訳ないけれども、僕らは伺っていなかったので今回は兵庫県のことだったので組織として「兵庫県の支部長さんご苦労様でした」と言うことで。それから富安さんの個人の家をお借りしたということをお聞きしました。これは「JA3YRLというJARLの移動局、直轄局が場所を借りお邪魔をしたことの感謝の意を表そうじゃないか」というようなこの2点です。

しかも総会の間際でしたから取りあえずそうしておいて、基地局等で活動した多くの方は当時我々としては本当にわかりませんでした。時期が遅くなっても漏れなく自薦、他薦をしていただいでからしようじゃないかという考え方を理事会としてはしていました。

兵庫県の出来事でしたので、兵庫県支部に、それから公のところを押さえるべきところが個人の家にお邪魔したので個人と、それでとりあえず2名というふうに決め理事会の中で決定したと記憶しております。

災害復旧には個人プライバシーの保護が最優先

コサカ：

そうすると、サブセンター局の兵庫県支部に一番お世話になったということであるならそれはわかりますよ。

個人の家という問題に関しては、私はあの現状を見てこれは大変だと。JA3YRLAをこんなところに置いておいたらいけない。なんとか早く移動先を見つけようと2月の2日か3日、災害後2週間後ですよ。移動する場所を灘区の神戸学生青年センター内に無線局設置と宿泊場所を確保し、直ぐに島関西地方本部長に連絡しました。「JA3YRLを個人宅に置いてはだめです。受験生はいる。小さい子供もいる。おばあちゃんもいる。そこに見ず知らずの無線家の男の人が入れ替わり5、6人わーわー入り込んでいって、家族のプライバシーなど全く無視されている。連盟は善意としてもしかるべき配慮が必要でそんないい加減なことはやめてほしい。こういうところを用意してあるから、早く移動させて下さい」関西地方本部長も

「この意見に全面的に賛成で直ぐに移動するように連絡する」と話されたがその後1カ月間移動しませんでした。3月でしょう移動したのは。この間どんな問題があって移動できなかったのでしょうか。それが個人の表彰と言うことで転嫁してしまう事がおかしいと思います。



東灘区8J3 AML基地局

大阪支部大会で富安さんはこんな事を言っていました「個人の家のプライバシーというのは3週間が限度です」彼はあえて「私の家からJA3YRLは移動して下さいとは言わないが、個人の家がプライバシーの問題で協力できるのは3週間」だと。その話し裏は何かというと「3週間で早く移動し家を空けてもらいたかった」と。でも彼は彼なりに一回引き受けた以上、早く移動してとは言えないでしょう。その意を関係者はなぜくんで上げなかったかということですよね。それを良いことにして「個人の資財までなげうって、家まで提供してくれた」なんて美談的に奉り上げ、安閑としてそのまま長期間放置してしまった。そこは責任者なら何らかの方法で公的に対処しなくては。それを表彰だけで責任を転嫁するのは僕はおかしいと思いますよ。

一方法としては大阪支部大会にも島関西地方本部長は来ていましたよ。出来たらその時にでも「富安さんの個人宅で開局したJA3YRLは、富安氏家族のプライバシーを多くく侵害した事をJARL関西地方本部長としてお詫びする」位の公的な意志表示があるべきではなかったかなと思います。

その間の事情に関して一番よく知っているのは兵庫県支部でしょう。しかも「兵庫県支部の下で皆んなが助け」ということを島本部長は言ったわけですよ。だけど兵庫県支部は皆さん方基地局をコントロールして、有効に動かすようなことをしてくれたかということに関しては僕は相当に疑問です。

にもかかわらず、その兵庫県支部が連盟としては優秀な動きをしたということになっているでしょう。僕はその辺が逆に言うと、これはやる、やれないのは別にして、僕の考えから言うと今回の災害活動で表彰したのは取り消せと。「連盟はこの

表彰に関して詳細に調査せずに行ったのは間違いで個人も支部もはずす」ということなら、さっきコナカさんが言われたように、何もやらないということです。

だけどまさかそれはね。社団法人としては面子があって出来ない。口では僕も言えますよ。だけどそれは世間体では出来ないですよ。残念だけど。

だったら、その辺の事をもっとクリアーにしないと、クリアーにした上で、どうするかということを考えてもらった方がいいと。

この席に兵庫県支部役員がいたり、JA 3 YRL 局の運用した責任者がいればこんな事情等いろんな事がわかって、誤解も解けるはずです。そういう事からしても出席し、全員で話し合う事が大切だと言っているわけです。

有坂：

ご説は良くわかりました。とりあえず今回そお言う事にしましたのです。

ナガサワ：

その変がね。表彰は総会のあれだけで打ち切りだと思ってますから。じゃなくて表彰枠がたくさんあると言う事ですね。

有坂：

ありますけれども、5月の総会が間近だったので活動した一人一人を選出するのに時間がかかりそうなので、とりあえず組織として、いわゆる何県の出来事ということでとりあえず表彰しました。

コナカ：

というのは、僕がなぜそういうことを言うかということ、西宮の8 J 3 A M R 局を訪ねた局はここに入っているから判ります。

僕らのネットのモバイルステーションは多くの情報与えてくれました。

これが正確につかめないんですよ。

その辺が非常に難しいんですよ。

有坂：

わかりました。それは組織の責任者として、この人は来たけれども、この人は来なかったということは辛いことだと思います。むしろ登録された方は別として、そういう理由があって登録されていますから。

そうじゃなくて、声なきものがあると思いますので、そういうときはクラブを表彰すべきであると。

コナカ：

そうになったら、僕らはまた困るんですね。そういう表彰というのは非常に難しいんですよ。その辺が皆さん方にどういう具合に理解できるかという事で。8 J 3 A M R の方に来られた方のリストは出せますが。

ナガサワ：

うちの例は大体4日以上活動者です。個人に礼状を出したのは4日以上活動した人に、4日以内の人はクラブニュース上でお礼の報告だけです。毎月クラブニュースを出していますから。そういうライン引きをしたんです。

有坂：

一例ですけれども、私はARRFというアメリカのボランティア団体がサンフランシスコの地震のときの最後の処理方法を見たのですが、コールと住所が羅列された後に「これ以外にもまだまだ自発的に行動した多くのアマチュア無線家います。その方達にもここに挙げられた方と同じように感謝の意を表する」と言うようなことで締めくくっていました。そうせざるを得ないのじゃないかと思うんですよ。

XXX：

ライン引きを決めてもらわないとしょうがないわね、どこかで。

ナガサワ：

僕らのやり方とよそでは当然差が出てくる可能性はあるね。うちは4日で締め切っているけど、よそは2日とかね。それはお互い様じゃないですか。そこにはそれぞれの所の長に権限を持たせてもらわなかったら。

有坂：

むしろだれがもらって、だれがもらわないということよりも、本当に出さないのなら出さないと決めるべきですね。そうじゃなくて、アマチュア無線連盟としては今後も皆さんにご協力をいただきたいし、今回の活動でアマチュアの名前を高めていただいたということも事実ですから、何か感謝の意を表したいという気持ちでございまして、ぜひ気持ちよく受け取っていただきたいとお願いをしたいんですが。

コナカ：

それはまたこの27日に、もう一度今日の話の内容を検討をする幹事会があるんです。

有坂：

連盟としてはそういうことで、お互いに今後仲良くしていきましょうよ。

コナカ：

その辺は私どもの方でも考えさせてもらうとして。

サワイ：

四国の方でも協力、援助をなさっておられる方もございますし、大東市…。

宮本：

判る範囲で全部出して下さい。

海老沢：

これは全国の連盟の支部を対象にしております。

会員、非会員を問いません。これは感謝の気持ちということですから。ただし連

盟の規定がございまして、会員の方は表彰状、非会員の方は感謝状という違いはございます。

コナカ：

J A R L 会員かどうかを見ないといかんね。

海老沢：

ただ会員か非会員かというのは、本部の方でも当然会員名簿がありますから。

宮本：

一応コールサインを書いてもらったら、こっちで調べる方法はありますから。

コサカ：

基地局として使用させて頂いた公的施設の方はどうしますか。

海老沢：

同じような形でしたいと思います。ただこれも本部だけでは100%つかんでいない可能性がありますので、忘れてはいけないので最後に付けて下されば結構です。提出は本部直接でも結構ですので、J A R L ニュースの8月号に推薦のお知らせも出しますので、本部の宛先を書いてあります。ただ締め切りが8月15日ということでちょっと忙しいかと思いますが。

J A R L で表彰状あるいは感謝状をお送りする方は当然J A R L ニュースに全員のコールサイン、あるいはお名前を出させていただきます。こういう理由でこの方々を表彰いたしました。一応手続き等がありますので何月号かということはちょっと申し上げられませんが、作業が終わり次第に感謝の気持ちということで会報でも報告させていただきたいと思います。

それからもう一つお願いですが、今日は皆さんよりいろいろな資料をいただきました。差し支えなければこれらを災害プロジェクト委員の人に報告し、ぜひ見ていただきたいと思います。ただこれは函るというのがございましたら、おっしゃっていただけましたら、それは削除するしたいと思います。それがお願いです。

有坂：

報告や提案は今で締め切るわけじゃないので「これは忘れていたよ」と「今後にも重要なことだから今後討議の対象にしてほしい」というものがあれば我々は聞く耳をいくらでも持っていますのでどしどし出して下さい。やはり情報不足ということが我々の方にもございますので。

コサカ：

そうすると兵庫県支部で今回の非常通信に関するものを纏めて本を作るとか言って連絡の案内が来ています。それで皆さんは既に兵庫県支部の方に出したんでしょうか。

X X X：

そんな連絡は来ていないし聞いていません。

コナカ：

私の方は活動をしたということだけで、本を作る為の原稿の話はしらないので僕は書いていません。

コサカ：

僕も書いてないですよ。書くべきものがないから。けどもそういうものが、これは噂ですよ。JARLの方から特別にそれを作るのに兵庫県支部の方に予算を出して、その予算で作るといのは本当なんですか。

宮本：

支部の予算がありますからその範囲内では作れます。

コサカ：

でも今日此処に来ている皆さんを含めての活動報告が集まらなかったら、意味のないことじゃないですか。

海老沢：

今日は実際にいろいろな報告なり提案をいただいておりますが、もし可能でしたら、JARLニュースに実際にこういう経験をし、こんな背景があった、あるいは今後のこういう大災害が発生したらどういうことを考えるか等の全部を掲載する為のスペースが無くて無理なんです。できるだけJARLニュースに掲載したいと思っております。

どなたかがもしまとめていただければと。出来るだけ多くの基地局の方の意見も含めて。まとめる方は書かなくてもいいと思います。どなたかにまとめていただいて、今日の反省会のようなこういうものを含んでですね。例えば基地局はこんな活動をしたとか、報告、提案を含めて、そういうことをJARLニュースに載せたいと願っているんですが。

連盟運営等の批判に耳を傾け積極的に出来る所から改善

有坂：

どうだったから、どうしたと言う様なことはそれぞれ書いていくときりがないので。

今回この会に出てきて意外だったなと思ったのは、精神論が非常に大きかったですね。「よき社会人」というのを問いつめられましたけれども、これは小学生がよき社会人であるとか云々じゃなく、アマチュア無線家というのはアマチュア無線家である以前にやはり社会人であれという、社会人に属さない子どもたちは社会人になったときにはよきアマチュア無線家になっているようにと。それは一つの「ボランティアというのを基準に考えて、震災はあったけれども、こういうものを我々は

学んだ」と言う様なことを関西の方に書いていただく事に意義があります。その辺に力を入れて頂ければ有り難いなど。

XXX:

どこか一つ決めておいてくれたら、僕らもそこに送りやすいし。

有坂:

それから、JARLに対するご批判もいろいろあると思います。我々も素直に耳に傾けますけれども、出来れば「こういうところが良くないよ」「こうしたらいいのじゃないか」と言う事を付けていただけると非常にありがたいと願います。

コサカ:

意見と改善案を付けて、少しは改善する兆しが見えて判れば言ったり出すと思いますよ。

有坂:

改善するためにはそれがないと。ただ印象批判だけだとその判断というのが不明瞭になるんです。

改善された所が判る様なガラス張りの運営を

コサカ:

その事で参考にして頂きたいのですが、今日は武蔵さんが出席してなくて残念ですが岡山県支部長でしょう。あの方と電話で話をして「やっぱり言っても無駄だよ」というふうに言われてしまうんですよね。「そんなことをJARLの本部の人に言っても無駄だよ」「自分たちは長年支部の運営活動をし、昔から何回も言ったが改善してくれなかった。だから自分たちは自分たちの動きをするのだ」というのがJARLの会員であり、支部を運営している人の意見としてあるということも覚えておいて下さい。言って何かなおる兆しがあるなら「またはこういうことを言われたけれども、ここだけは直らないけれども、ここだけちょっと手をかけました」とかね。そういうものがね。

有坂:

支部長がそれを言うというのは誠にあれです。

コサカ:

支部長は支部を運営しているから大変苦勞されています。JARLの役職組織の中では支部長というのは下の方です。そうでしょう。理事がいて、評議員がいて、支部長というのは組織の一番最後の末端ですよ。その人たちは連盟という枠の中ではなかなか本音で言えない立場にある事を理解するのが上に立つ人の度量ではないかと思います。僕は一会員であるからいくらかでも言えるんですよ。だからいろんな問題を抱えていながらも会員を組織し運営して行く立場にある支部長の皆さんは悩

んでいると思います。「少なくともこれこれのことを言われたけれども、これこれのことは少しずつ改善する」とか「改善した」とかいうものをJARLニュースにでもちょこちょこ出してくれると「ああそうか、少しは改善していくんだな」という事が実感として理解しもっともっと前向きな意見が集まとは思いませんか。

JARLは今までに今日の様な状態で役員と一会員の意見を交わす機会を持った事はなかったと思います。どんな組織でも年数が過ぎると役員の年齢も高年齢化となり、それに伴い組織が硬直化するのとは当たり前です。それを防ぐには時には生の一会員の意見、動向を知り役員会議でその意見を積極的に提出し、検討する姿勢が大切ではないでしょうか。

今後は組織運営上でもこの様なインフォーマル的な会合をドンドン開き若い人の意見を聞く事が大切な事で、ひいては会員の増加にも連がるものと考えます。

有坂：

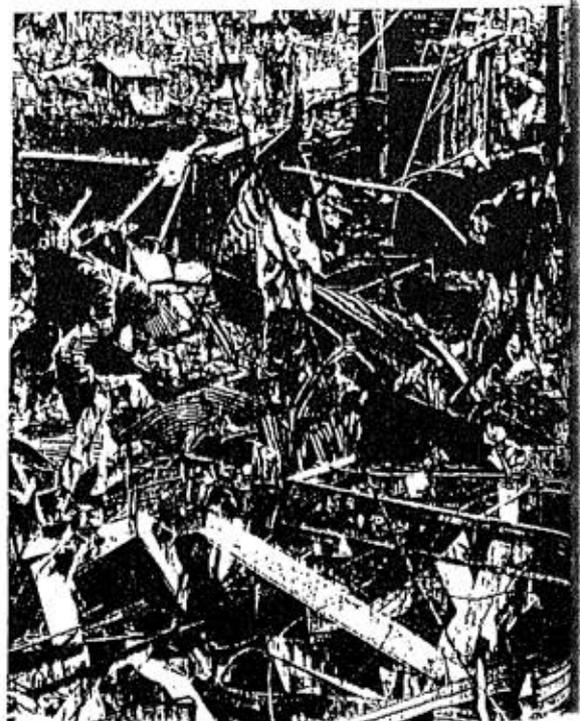
確におっしゃる事は判ります。その辺がすごく下手である事ことは認めます。それからもう一つ動きが遅いんです。決して忘れてはいるわけではないんです。遅いんです。

コサカ：

私の言う事がお判り頂いて有り難うございました。今後は皆んなにも判る様にして下さい。それだけなんですよ。

海老沢：

コサカさんは非常に率直なご意見を出して頂き有り難う御座いました。私も伺いながらいろいろな意味で思い当たるところがあります。しかし急に今日伺って明日という事には正直言って出来ないと思います。ただ気持ちとしては、私も先ほど申し上げましたように3年前にここに来まして、私の力をアマチュア無線に恩返しをしたいという気持ちもございしますので「何処まで出来るか、するか」はともかく、気持ちは正にそういう所にありますので、ぜひ何事もおっしゃっていただいて結構ですし出来る事はやります出来ない事は申し訳ないが出来なかったというふうにしていきたいと思いますのでよろしくをお願いします。



焼け跡で呆然と立ち尽くす人

タカヤス：

2点だけちょっとよろしいですか。

まず今日ここにお見えになっていないのですが、大阪支部大会では被害に遭われた我孫子さんが講演なさいましたね。そのまとめを持っていますのでお渡ししたいと思います。我孫子さん本人には内諾は得ておりませんが、私のメモでございますので、これをお渡ししたいと思います。

それから2点目でございますが、先ほど表彰規定や表彰のお話がありました。公立学校というのは非常事態に備えて避難所となり避難者をお世話する事は父兄の義務ですね。当然のことですので表彰するとかえって迷惑になる場合があるかもしれません。評議委員会等を通じまして、その確認をした上での表彰がいいのではないかと思います。

いろいろな方が参加されまして、自薦、他薦をするわけでございますが、ご本人の内諾を必ず得るようにしていただきたい。他薦の場合、特に本人がいないよということもありますので、自薦、他薦の場合を問わず、ご本人の内諾が非常に必要かと思えます。

梅老沢：

ありがとうございます。

私どももまだ新米ではっきりわかりませんが、表彰する場合には必ず事前にご本人に確認しているはずですが、再度必ず確認します。

タニ：

ちょっと最後に言いたいと思えます。

私は開局以来ずっとJARLの会員です。JARLの組織のことには今まで全然ノータッチで知らないんですが、こうして地震以来、大阪支部とか兵庫県支部とかああこんなことがあったのかと組織について初めて知ったような状態です。大阪や神戸とか京都とか言わず、同じアマチュア無線家ですから、もっと仲良くしてほしいんですね。何かこだわりがあるような気がしましてね。

宮本：

いや別に何もありません。少なくとも僕に関しては、兵庫県支部とは何のこだわりもありませんし、ずっと仲良くやっています。

タニ：

そうですか。それならいいんですが。

宮本：

別のところは知りませんよ。少なくとも僕に関しては何もありません。

コナカ：

もう1点だけお聞きしたいなと思えます。表彰の推薦の用紙のこれは大阪支部長

名で来ていますね。これは兵庫県支部長も確認の上ですか。

宮本：

これは私が今日お集まりの人に出したんです。つまり会長から各支部長宛に「表彰したいから推薦してくれ」というのが来たんです。ただし、私の方で全部情報を掴めませんので、出来るだけいろいろな機会をつかまえて表彰の推薦をということで今日ここにおられる方からも情報を提供してほしいと。

コナカ：

これが別に兵庫県支部からは私共に来る可能性があるんですね。そういうことなのでしょう。これが大阪支部長に出して、兵庫県支部長には出さなかったとか、それが重なってしまうとか。

宮本：

重複しても、どうせ最終的には連盟の方に行き調整しますから。

コサカ：

そんな面倒くさい事をしないで、ここにいる人たちはこれを書いて出したらいいいんじゃないですか。

コナカ：

今日ここに兵庫県支部長とか支部の方が出て来られたら、それが確認できるんだけど。僕は兵庫県支部の管轄ですから。大阪支部の人はそれで納得がいくでしょうけれどもね。

宮本：

そういう管轄の問題はひとつもありませんから。兵庫の方が大阪に出しても、大阪の方が兵庫に出しても、大阪支部長が気にいらんから兵庫に出すというのでも結構です。

コサカ：

兵庫県支部の人が兵庫県支部を通さずに出したときに、いちやもんを付けられてということは。

コナカ：

今後出てくるかと違いますか。違いますか。

宮本：

そんな懸念はしなくても大丈夫です。今日集まってくれた方にお渡ししているわけであって、私はこれは大阪支部の関係者に全部配りますからね。何処に提出しようが一向に差し支えありません。

コサカ：

JARJ.ニュースで拝見しましたが兵庫県支部の長谷川さんでしたか、名称に顧問という制度があるんですか。

宮本：

支部にいたら顧問です。規定がなければ作って…。

サワイ：

本部の方をお願いしたいのは、私らもよき社会人であるお手本を後輩に残していきたいので、一生懸命やりたいと思います。それでまた本部の方でもそのバックアップをお願いし、ひとつご協力をお願いしたいと思います。

有坂：

具体的に何かありましたら。

サワイ：

具体的にまた文書でさしあげますのでよろしくお願いします。それから胸を張って「私はアマチュア無線家だ」と言える時代が目の前に来ています。ですからそれを実行するのに我々もやっていきたいと。

宮本：

今日は長時間にわたりまして、いろいろ有意義なご意見をありがとうございました。これを糧に、災害対策の方も皆さんのご意見を十分に参考にして、今後進めていきたいと思っておりますので、どうかよろしくをお願いしたいと思います。本当に今日は長時間どうもありがとうございました。

(注) この反省会の内容で、テープ書取で意味不明の部分は削除し、前後を通して判明出来る部分は趣旨を損なわないように一部修正しています。

本文の無断でのコピーは禁じます。尚文責は小坂雄二です。

写真及び資料提供：医学書院・薬業時報社・日本看護協会出版会・大阪市総合医療センター・陸上自衛隊・日本医療情報センター・日本医療企画
バヌアツに医療を送る会・全国保険医団体連合会・大阪府保険医協会・神戸市役所・芦屋市役所・宝塚市役所・西宮市役所・
大阪市消防局・谷 通好・小坂 雄二(敬称略)

